

# 士別市学校施設長寿命化計画

令和2年3月

士別市教育委員会



# 士別市 学校施設長寿命化計画

## < 目 次 >

序 章	計画策定の背景と目的-----	1
第 1 章	士別市の学校施設等を取り巻く状況	
1	士別市の概要-----	3
2	人口・世帯数の動向-----	4
3	上位・関連計画の状況-----	7
第 2 章	学校施設の実態	
1	学校施設の運営状況・活用状況等の実態-----	16
2	児童生徒数および学級数の変化-----	17
3	学校施設の保有量-----	20
4	施設関連経費の推移-----	22
5	学校施設の劣化状況の実態-----	23
第 3 章	学校施設整備の基本的な方針	
1	学校施設を取り巻く状況の整理-----	37
2	学校施設のめざすべき姿-----	38
3	学校施設整備の基本的な方針等-----	39
4	改修等の基本的な方針-----	41
5	基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等-----	43
第 4 章	長寿命化の実施計画	
1	改修等の優先順位づけと実施計画-----	45
2	長期的な管理の見通し-----	47
3	長寿命化の継続的運用方針-----	49
参考資料	朝日中学校の改築・改修に関する検討-----	50



# 序 章 計画策定の背景と目的

## 1 計画策定の背景

士別市（以下、本市）が現在維持管理する学校教育系施設は、昭和 30 年代から整備され、全公共施設面積の約 18%※を有しています。また、児童生徒数は昭和 40 年代をピークに減少を続け、現在に至っています。

学校教育系施設については、これまで学校の改築のほか、耐震改修や外壁・屋根・屋上等の改修等を実施してきましたが、今後も予想される長寿命化改修や大規模な改修、建替には多額の費用が必要になると考えられており、適正な施設管理が課題となっています。

（※士別市公共施設白書（平成 28 年 3 月）：学校教育系施設 15 施設 56,234.9 m<sup>2</sup>、全公共施設の 18.0%）

## 2 計画策定の目的

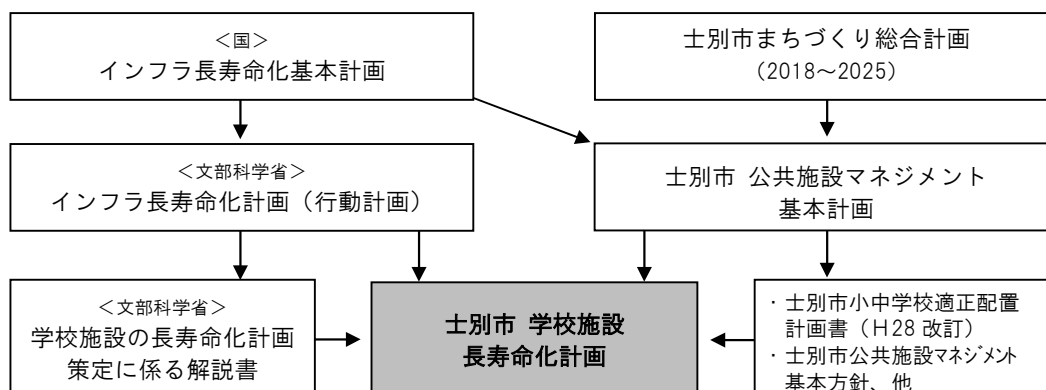
本市が設置する小学校・中学校・高校について、建物や設備等の老朽化・不具合等を改善していくために、学校施設全体の状況を把握し、児童生徒が安全で快適な学校生活を送ることができるよう、老朽改修や環境性能向上を含めた長寿命化計画を策定することを目的とします。

士別市学校施設長寿命化計画（以下、本計画）では、総合的・長期的な観点で整備・維持管理の適正化を図るとともに、財政負担の軽減・平準化なども踏まえ、施設整備の基本方針を策定します。

## 3 計画の位置づけ

本計画は、総合計画をはじめとする上位計画や関連計画と整合を図りながら策定します。

図表 0-1 計画の位置づけ



#### 4 計画期間

本計画の期間は、長期的な維持管理の視点に立ち、構想期間を40年、計画期間を10年間(2020～2029年度)とします。

また、社会情勢の変化、事業の進捗状況などを踏まえて、原則5年毎を基準に適宜見直しを行います。

2020年度	2029年度		
計画期間	構想期間(中長期40年)		

#### 5 対象施設

本計画の対象施設は、小学校6校、中学校5校、高校1校とします。なお、多寄中学校は令和元年度末をもって閉校し、士別中学校に統合されます。

図表 0-2 計画の対象施設

学校名	
小学校	1 士別小学校
	2 士別南小学校
	3 上士別小学校
	4 多寄小学校
	5 温根別小学校
	6 糸魚小学校
中学校	1 士別中学校
	2 士別南中学校
	3 上士別中学校
	4 多寄中学校
	5 朝日中学校
高校	1 士別東高等学校

# 第 1 章 士別市の学校施設等を取り巻く状況

## 1 士別市の概要

### (1) 位置・面積

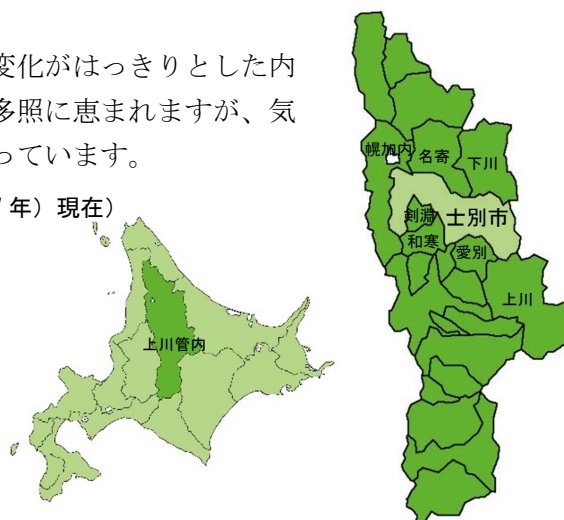
本市は、北海道北部の中央に位置し、道立自然公園「天塩岳」をはじめとする山々に囲まれ、北海道の第2の大河「天塩川」の源流域にある水と緑豊かな田園都市です。

市域は、東西に58 k m、南北に42 k mに広がり、行政面積は1,119.22km<sup>2</sup>を有しており、その約74%を山林が占めています。

気候は、上川北部の盆地にあるため、四季の変化がはっきりとした内陸性気候で、5月から9月上旬までは比較的高温多照に恵まれますが、気温の日較差が大きく、年較差も大きなものとなっています。

図表 1-1 士別市の地勢・気温（平成 29 年（2017 年）現在）

<地勢>	
◆総面積	1,119.22km <sup>2</sup>
◆東西方向	58km
◆南北方向	42km
<気候>	
◆気温	最高 32.0℃ : 最低 -26.4℃
◆日照時間	1,534 時間
◆降水量	999 mm



資料 士別市まちづくり総合計画（平成 30 年）

### (2) 学校施設と学区の状況

平成 31 年（2019 年）4 月現在、本市では、小規模校や過小規模校等の計画的な統合により、小学校は 6 校、中学校は 5 校に集約されています。なお、令和元年度末をもって多寄中学校は閉校し、校舎は多寄小学校で活用します。

図表 1-2 士別市立小中学校通学区域

	学校名	通学区域
小学校	1 士別小学校	北 9 丁目～6 丁目（東 8 条より東にあっては中央通以北）、北町全域、西士別町全域、下士別町全域、武徳町全域、中士別町全域
	2 士別南小学校	7 丁目～21 丁目（東 8 条より東にあっては中央通以南）、南町全域、川西町全域、南士別町全域
	3 上士別小学校	上士別町全域
	4 多寄小学校	多寄町全域
	5 温根別小学校	温根別町全域
	6 糸魚小学校	朝日町全域
中学校	1 士別中学校	士別小学校、温根別小学校区域の全域
	2 士別南中学校	士別南小学校区域の全域
	3 上士別中学校	上士別町全域
	4 多寄中学校	多寄町全域
	5 朝日中学校	朝日町全域

## 2 人口・世帯数の動向

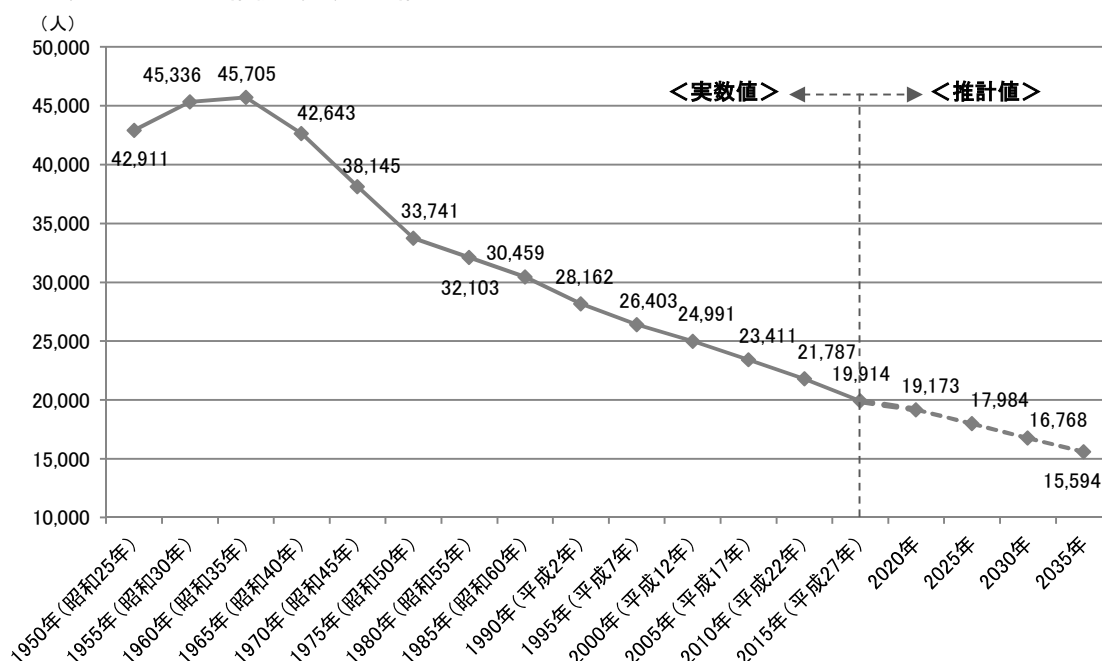
### (1) 人口・世帯数

本市の人口は、昭和35年（1960年）には45,705人（国勢調査）を数えましたが、その後減少を続け、平成27年（2015年）では、19,914人となっています。

世帯数は近年の動向をみると微減傾向で推移しており、平成27年（2015年）では8,625世帯となっています。

なお、士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略による将来人口の推計では、2025年には17,984人程度、2035年には15,594人程度と推計しています。

図表1-3 人口の推移（実数値と推計値）



※人口（実数値）…各年国勢調査による（※平成17年以前の人口は旧士別市と旧朝日町の人口を合計）

※人口（推計値）…士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略による推計値

図表1-4 本市の人口の推移（単位：人）

	平成7年 (1995年)	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)
北海道	5,692,321	5,683,062	5,627,737	5,506,419	5,381,733
	—	-0.2%	-1.0%	-2.2%	-2.3%
士別市	26,403	24,991	23,411	21,787	19,914
	—	-5.3%	-6.3%	-6.9%	-8.6%

資料 各年国勢調査（※上段：実数、下段：前回調査年度比）

図表1-5 本市の世帯数の推移（単位：世帯）

	平成7年 (1995年)	平成12年 (2000年)	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)
北海道	2,174,122	2,277,968	2,368,892	2,418,305	2,438,206
	—	4.8%	4.0%	2.1%	0.8%
士別市	9,402	9,440	9,386	9,378	8,625
	—	0.4%	-0.6%	-0.1%	-8.0%

資料 各年国勢調査（※上段：実数、下段：前回調査年度比）



## (2) 年齢別人口

平成27年(2015年)の本市の14歳以下の年少人口は2,066人で全体の10.4%であり、北海道の11.3%を若干下回っています。

また、本市の65歳以上の老年人口の割合は37.4%であり、北海道の29.0%を大きく上回っています。年少人口のうち幼稚園から中学校までの5歳～14歳の割合は7.5%に対し、北海道は7.9%と同程度ですが、今後通学の対象となる0～4歳の割合は、本市は2.8%であり北海道の3.5%を下回っています。

図表1-6 年齢別人口/5歳階級(平成27年国勢調査)

区分	士別市 平成27年(2015年)				北海道 平成27年(2015年)			
	総数	男	女	構成比	総数	男	女	構成比
総数	19,914	9,382	10,532	100.0%	5,381,733	2,537,089	2,844,644	100.0%
0歳～4歳	567	294	273	2.8%	186,010	95,022	90,988	3.5%
5歳～9歳	680	368	312	3.4%	202,269	103,549	98,720	3.8%
10歳～14歳	819	404	415	4.1%	220,017	111,816	108,201	4.1%
15歳～19歳	719	374	345	3.6%	239,098	123,196	115,902	4.4%
20歳～24歳	510	278	232	2.6%	234,274	117,965	116,309	4.4%
25歳～29歳	656	360	296	3.3%	247,587	123,076	124,511	4.6%
30歳～34歳	852	442	410	4.3%	287,674	141,876	145,798	5.3%
35歳～39歳	1,024	532	492	5.1%	337,369	166,514	170,855	6.3%
40歳～44歳	1,230	603	627	6.2%	391,243	193,093	198,150	7.3%
45歳～49歳	1,169	561	608	5.9%	350,794	169,252	181,542	6.5%
50歳～54歳	1,248	598	650	6.3%	345,836	165,634	180,202	6.4%
55歳～59歳	1,361	693	668	6.8%	343,884	165,353	178,531	6.4%
60歳～64歳	1,615	754	861	8.1%	413,045	195,920	217,125	7.7%
65歳～69歳	1,781	789	992	8.9%	448,646	207,461	241,185	8.3%
70歳～74歳	1,526	667	859	7.7%	341,850	151,031	190,819	6.4%
75歳～79歳	1,525	635	890	7.7%	293,306	124,921	168,385	5.5%
80歳～84歳	1,275	583	692	6.4%	238,663	95,987	142,676	4.4%
85歳～89歳	827	302	525	4.2%	149,960	51,414	98,546	2.8%
90歳～94歳	372	103	269	1.9%	65,902	16,786	49,116	1.2%
95歳～99歳	122	30	92	0.6%	17,225	3,247	13,978	0.3%
100歳～	23	3	20	0.1%	2,835	439	2,396	0.1%
不詳	13	9	4	-	24,246	13,537	10,709	0.5%
0歳～14歳	2,066	1,066	1,000	10.4%	608,296	310,387	297,909	11.3%
15歳～64歳	10,384	5,195	5,189	52.1%	3,190,804	1,561,879	1,628,925	59.3%
65歳～	7,451	3,112	4,339	37.4%	1,558,387	651,286	907,101	29.0%

士別市 平成27年(2015年)		北海道 平成27年(2015年)	
100歳～	23	2,835	2,396
95歳～99歳	122	17,225	13,978
90歳～94歳	372	65,902	49,116
85歳～89歳	827	149,960	98,546
80歳～84歳	1,275	238,663	142,676
75歳～79歳	1,525	293,306	168,385
70歳～74歳	1,526	341,850	190,819
65歳～69歳	1,781	448,646	241,185
60歳～64歳	1,615	413,045	217,125
55歳～59歳	1,361	343,884	178,531
50歳～54歳	1,248	345,836	180,202
45歳～49歳	1,169	350,794	181,542
40歳～44歳	1,230	391,243	198,150
35歳～39歳	1,024	337,369	170,855
30歳～34歳	852	287,674	145,798
25歳～29歳	656	247,587	124,511
20歳～24歳	510	234,274	116,309
15歳～19歳	719	239,098	115,902
10歳～14歳	819	220,017	108,201
5歳～9歳	680	202,269	98,720
0歳～4歳	567	186,010	90,988

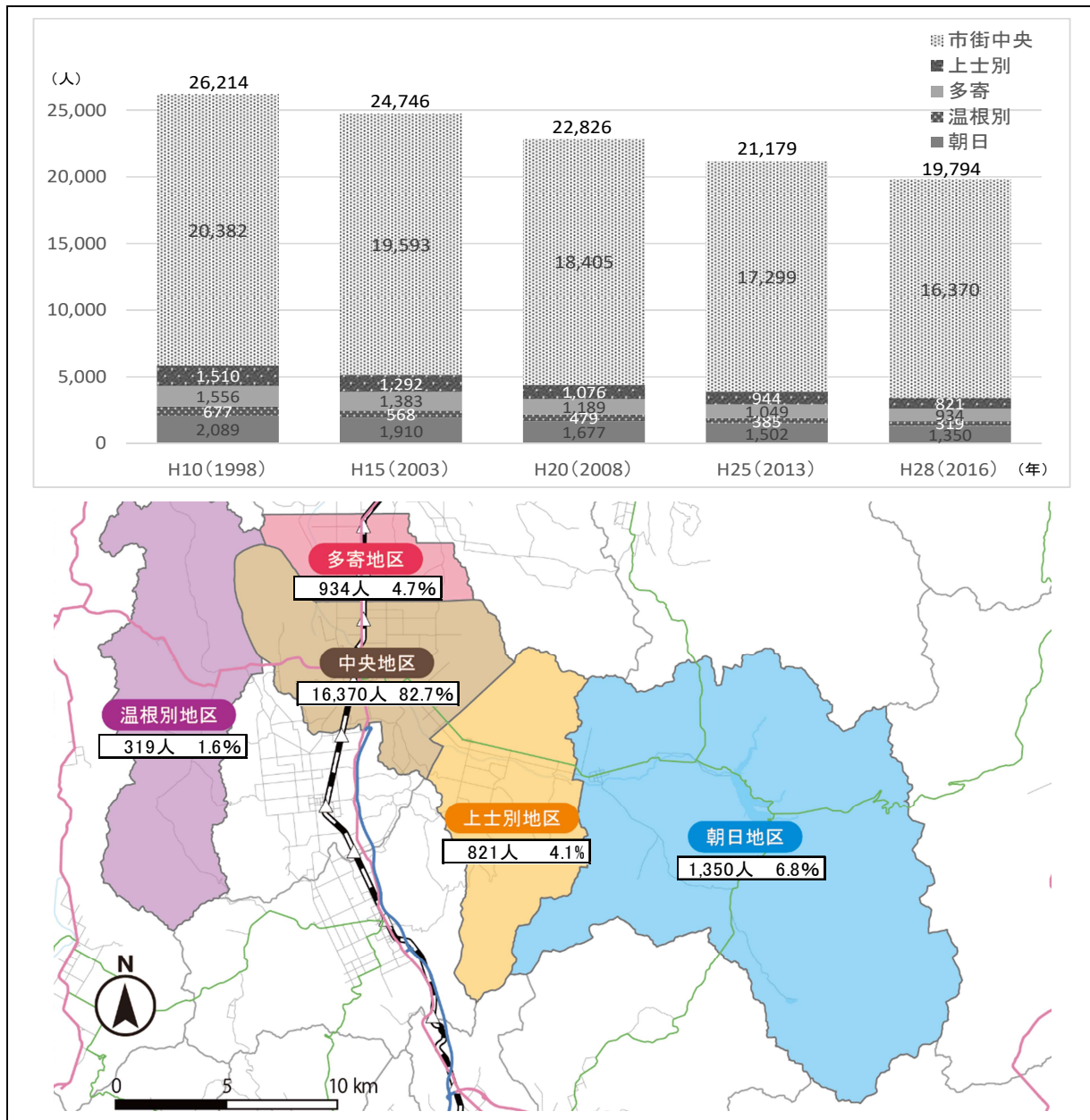
※各区分の構成比の合計は、端数処理の関係で100%とならない場合があります。

### (3) 地区別人口の現状と推移

学校施設が所在する地区別人口の現状と推移は、市街中央地区は16,370人で全体の約80%で推移しており、その他の地区は人口・割合ともに減少傾向にあります。

図表 1-7 地区別人口の推移（士別市まちづくり総合計画 平成30年（2018年））

区分	地区別人口									
	平成10年 (1998年)		平成15年 (2003年)		平成20年 (2008年)		平成25年 (2013年)		平成28年 (2016年)	
	総数	構成比	総数	構成比	総数	構成比	総数	構成比	総数	構成比
市街中央地区	20,382	77.8%	19,593	79.2%	18,405	80.6%	17,299	81.7%	16,370	82.7%
上士別地区	1,510	5.8%	1,292	5.2%	1,076	4.7%	944	4.5%	821	4.1%
多寄地区	1,556	5.9%	1,383	5.6%	1,189	5.2%	1,049	5.0%	934	4.7%
温根別地区	677	2.6%	568	2.3%	479	2.1%	385	1.8%	319	1.6%
朝日地区	2,089	8.0%	1,910	7.7%	1,677	7.3%	1,502	7.1%	1,350	6.8%
総数	26,214	100.0%	24,746	100.0%	22,826	100.0%	21,179	100.0%	19,794	100.0%



※各区分の構成比の合計は、端数処理の関係で100%とならない場合があります。

### 3 上位・関連計画の状況

#### (1) インフラ長寿命化基本計画

[平成 25 年(2013 年)11 月 インフラ老朽化対策の推進に関する関係省庁連絡会議]

高度成長期以降に集中的に整備されたインフラの加速度的な老朽化に向け、戦略的な維持・管理・更新等を推進することを目的に策定されています。

図表 1-8 インフラ長寿命化基本計画の概要

<p>&lt;計画の目的&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇個別施設毎の長寿命化計画を核として、メンテナンスサイクルを構築</li> <li>◇メンテナンスサイクルの実行や体制の構築等により、トータルコストを縮減・平準化</li> <li>◇産学官の連携により、新技術を開発・メンテナンス産業を育成</li> </ul>																	
<p>&lt;計画の概要&gt;</p> <p>[1. 目指すべき姿]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆安全で強靱なインフラシステムの構築</li> <li>◆総合的・一体的なインフラマネジメントの実現</li> <li>◆メンテナンス産業によるインフラビジネスの競争力強化</li> </ul> <p>[2. 基本的な考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆インフラ機能の確実かつ効率的な確保           <ul style="list-style-type: none"> <li>➢メンテナンスサイクルの構築や多段階の対策により、安全・安心を確保</li> <li>➢予防保全型維持管理の導入、必要性の低い施設の統廃合等によりトータルコストを縮減・平準化し、インフラ投資の持続可能性を確保</li> </ul> </li> <li>◆メンテナンス産業の育成           <ul style="list-style-type: none"> <li>➢産学官連携の下、新技術の開発・積極公開により民間開発を活性化させ、世界の最先端へ誘導</li> </ul> </li> <li>◆多様な施策・主体との連携           <ul style="list-style-type: none"> <li>➢防災・減災対策等との連携により、維持管理・更新を効率化</li> <li>➢政府・産学界・地域社会の相互連携を強化し、限られた予算や人材で安全性や利便性を維持・向上</li> </ul> </li> </ul> <p>[3. 計画の策定内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆インフラ長寿命化計画（行動計画）           <ul style="list-style-type: none"> <li>➢計画的な点検や修繕等の取組を実施する必要性が認められる全てのインフラでメンテナンスサイクルを構築・継続・発展させるための取組の方針 (対象施設の現状と課題/維持管理・更新コストの見通し/必要施策に係る取組の方向性 等)</li> </ul> </li> <li>◆個別施設毎の長寿命化計画（個別施設計画）           <ul style="list-style-type: none"> <li>➢施設毎のメンテナンスサイクルの実施計画 (対策の優先順位の考え方/個別施設の状態等/対策内容と時期/対策費用 等)</li> </ul> </li> </ul>																	
<p>&lt;必要施策の方向性&gt;</p> <table border="1"> <tr> <td>点検・診断</td> <td>定期的な点検による劣化・損傷の程度や原因の把握 等</td> </tr> <tr> <td>修繕・更新</td> <td>優先順位に基づく効率的かつ効果的な修繕・更新の実施 等</td> </tr> <tr> <td>基準類の整備</td> <td>施設の特性を踏まえたマニュアル等の整備、新たな知見の反映 等</td> </tr> <tr> <td>情報基盤の整備と活用</td> <td>電子化された維持管理情報の収集・蓄積、予防的な対策等への利活用等</td> </tr> <tr> <td>新技術の開発・導入</td> <td>ICT、センサー、ロボット、非破壊検査、補修・補強、新材料等に関する技術等の開発・積極的な活用 等</td> </tr> <tr> <td>予算管理</td> <td>新技術等の活用やインフラ機能の適正化による維持管理・更新コストの縮減、平準化 等</td> </tr> <tr> <td>体制の構築</td> <td>[国] 技術等の支援体制の構築、資格・研修制度の充実 [地方公共団体] 維持管理・更新部門への人員の適正配置、国の支援制度等の積極的な活用 [民間企業] 入札契約制度の改善 等</td> </tr> <tr> <td>法令等の整備</td> <td>基準類の体系的な整備 等</td> </tr> </table>		点検・診断	定期的な点検による劣化・損傷の程度や原因の把握 等	修繕・更新	優先順位に基づく効率的かつ効果的な修繕・更新の実施 等	基準類の整備	施設の特性を踏まえたマニュアル等の整備、新たな知見の反映 等	情報基盤の整備と活用	電子化された維持管理情報の収集・蓄積、予防的な対策等への利活用等	新技術の開発・導入	ICT、センサー、ロボット、非破壊検査、補修・補強、新材料等に関する技術等の開発・積極的な活用 等	予算管理	新技術等の活用やインフラ機能の適正化による維持管理・更新コストの縮減、平準化 等	体制の構築	[国] 技術等の支援体制の構築、資格・研修制度の充実 [地方公共団体] 維持管理・更新部門への人員の適正配置、国の支援制度等の積極的な活用 [民間企業] 入札契約制度の改善 等	法令等の整備	基準類の体系的な整備 等
点検・診断	定期的な点検による劣化・損傷の程度や原因の把握 等																
修繕・更新	優先順位に基づく効率的かつ効果的な修繕・更新の実施 等																
基準類の整備	施設の特性を踏まえたマニュアル等の整備、新たな知見の反映 等																
情報基盤の整備と活用	電子化された維持管理情報の収集・蓄積、予防的な対策等への利活用等																
新技術の開発・導入	ICT、センサー、ロボット、非破壊検査、補修・補強、新材料等に関する技術等の開発・積極的な活用 等																
予算管理	新技術等の活用やインフラ機能の適正化による維持管理・更新コストの縮減、平準化 等																
体制の構築	[国] 技術等の支援体制の構築、資格・研修制度の充実 [地方公共団体] 維持管理・更新部門への人員の適正配置、国の支援制度等の積極的な活用 [民間企業] 入札契約制度の改善 等																
法令等の整備	基準類の体系的な整備 等																

(2) 文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）[平成27年(2015年)3月]

国による基本計画に基づき、平成26～32年を計画期間とし、文部科学省が所管又は管理する施設の長寿命化に向け、中期的な取組の方向性を明らかにすることを目的に策定されています。

図表 1-9 文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）の概要

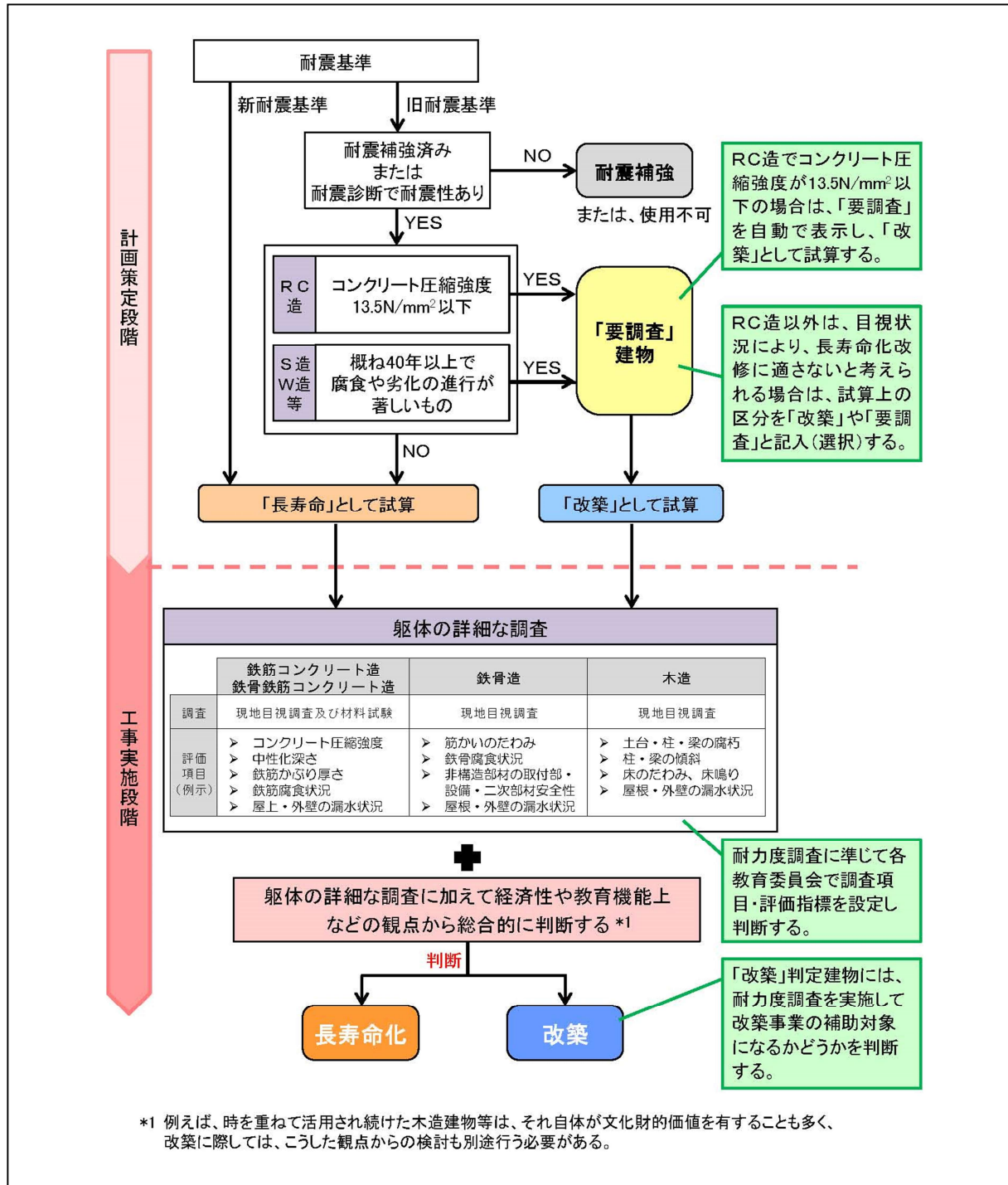
<p>&lt;計画の範囲&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆対象施設：維持管理等に関する公財政支出があり、多数の国民を受け入れる施設 (国公立学校施設、公立社会教育施設、施設運営型独立行政法人、庁舎等)</li> <li>◆計画期間：平成26～32年度(2014～2020年度)</li> </ul>																	
<p>&lt;目指すべき姿&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆各設置者における「メンテナンスサイクル」(①定期的な点検・診断、②計画策定、③計画に基づく対策の実施)の構築</li> <li>◆これまでの改築中心から長寿命化への転換による、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減</li> <li>◆行動計画・個別施設計画の策定を通じた予算の平準化</li> </ul>																	
<p>&lt;現状・課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆第2次ベビーブームに対応して整備された学校施設等について、今後、急速な老朽化と整備需要の急増が予想</li> <li>◆建築基準法に基づく点検・診断の実施状況等について地域差が存在</li> <li>◆児童生徒等の安全性の確保はもとより、教育研究活動の高度化・多様化やバリアフリー・省エネ等に対応した機能の向上も必要</li> <li>◆厳しい財政状況等により対策が十分に行われていないおそれ</li> </ul>																	
<p>&lt;取組の方向性&gt;</p> <table border="1"> <tr> <td>点検・診断の着実な実施</td> <td>地域差のない点検の着実な実施を要請、点検実施の手引を作成・提供</td> </tr> <tr> <td>個別施設計画の策定</td> <td>個別施設計画策定の手引の作成・提供等により各設置者の取組を促進</td> </tr> <tr> <td>対策の着実な実施</td> <td>個別施設計画に基づく着実な取組を促進</td> </tr> <tr> <td>予算管理</td> <td>トータルコスト縮減・予算の平準化の促進、必要な予算の安定的な確保</td> </tr> <tr> <td>指針・手引の策定</td> <td>「点検・診断」「計画」「対策」の各段階に対応する指針・手引の整備・充実</td> </tr> <tr> <td>体制の構築</td> <td>体制構築の重要性・手段等に関する周知、先駆的事例の普及啓発</td> </tr> <tr> <td>情報基盤の整備及び活用</td> <td>施設に関する情報の蓄積・共有の有用性に関する普及啓発</td> </tr> <tr> <td>新技術の開発・導入</td> <td>非破壊診断技術・新材料に関する研究開発、導入段階に至った新技術の周知</td> </tr> </table>		点検・診断の着実な実施	地域差のない点検の着実な実施を要請、点検実施の手引を作成・提供	個別施設計画の策定	個別施設計画策定の手引の作成・提供等により各設置者の取組を促進	対策の着実な実施	個別施設計画に基づく着実な取組を促進	予算管理	トータルコスト縮減・予算の平準化の促進、必要な予算の安定的な確保	指針・手引の策定	「点検・診断」「計画」「対策」の各段階に対応する指針・手引の整備・充実	体制の構築	体制構築の重要性・手段等に関する周知、先駆的事例の普及啓発	情報基盤の整備及び活用	施設に関する情報の蓄積・共有の有用性に関する普及啓発	新技術の開発・導入	非破壊診断技術・新材料に関する研究開発、導入段階に至った新技術の周知
点検・診断の着実な実施	地域差のない点検の着実な実施を要請、点検実施の手引を作成・提供																
個別施設計画の策定	個別施設計画策定の手引の作成・提供等により各設置者の取組を促進																
対策の着実な実施	個別施設計画に基づく着実な取組を促進																
予算管理	トータルコスト縮減・予算の平準化の促進、必要な予算の安定的な確保																
指針・手引の策定	「点検・診断」「計画」「対策」の各段階に対応する指針・手引の整備・充実																
体制の構築	体制構築の重要性・手段等に関する周知、先駆的事例の普及啓発																
情報基盤の整備及び活用	施設に関する情報の蓄積・共有の有用性に関する普及啓発																
新技術の開発・導入	非破壊診断技術・新材料に関する研究開発、導入段階に至った新技術の周知																

(3) 学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書 [平成29年(2017年)3月 文部科学省]

文部科学省によるインフラ長寿命化計画(行動計画)に基づき、各地方公共団体において学校施設を対象とした長寿命化計画が早期に策定されるよう、計画に盛り込むべき事項や、それらを検討する上での留意事項等を示すものとして作成されています。

なお、本解説書では、計画策定のための建物情報を整理するにあたり、「①学校施設の全体把握」、「②老朽化状況の把握」、「③今後の維持・更新コストの把握」、「④直近の整備計画の策定」の4段階が示されています。

図表 1-10 長寿命化の判定フロー



(4) 士別市まちづくり総合計画 [平成30年(2018年)3月]

2018～2025年度を計画期間とし、時代の変化に的確に対応するため、市民と議会、行政が連携し、力を合わせながらまちづくりを進めるための基本方針が策定されています。

めざす都市像は「天塩の流れとともに 人と大地が躍動する すこやかなまち」とし、学校教育に関する主要施策は基本計画第1章第5節で位置づけられています。

図表 1-11 士別市まちづくり総合計画：2018～2025

<めざす都市像>

天塩の流れとともに 人と大地が躍動する すこやかなまち

<基本理念>

地域力を高め、地域力で進めるまちづくり

<基本計画>

<p><b>第1章</b></p> <p>健やかで豊かな 心育むまちづくり</p>	<p>第1節 医療 第2節 保健・健康づくり 第3節 福祉・介護・社会保障 第4節 子ども・子育て支援</p>	<p><b>第5節 教育</b> 第6節 社会学習・文化・スポーツ 第7節 防犯・交通安全・消費生活</p>
---	---	--

<第5節 教育（関連施策等抜粋）>

**[施策の基本方向]**

- ◇子どもたちが心豊かにたくましく生きる力を身につけられるよう、今後も家庭、幼稚園、保育所や小学校の連携を強化するとともに、幼稚園教諭や保育士等の研修活動等に取り組みます。
- ◇教育基本法の改正による教育改革が進められるなか、児童生徒の「生きる力」を育成する義務教育の機会の保障は、教育行政の重要な責務です。このようななか、子どもたちに必要な資質・能力を育むためには、学校が地域や社会と接点を持ちつつ、多様な人々とつながりを保ちながら学ぶことのできる、開かれた環境となるよう、取り組みを進めます。
- ◇少子化が進み児童生徒数が減少傾向にあることから、高校教育では、それぞれの学校の特色を生かした教育活動をPRするなど、今後、入学する生徒を一定数確保することが重要となります。このため、生徒が使用する教材教具の整備や通学費の助成などを行うなど、保護者への経済的な支援を行い、生徒数の確保をめざします。
- ◇また、教職員の資質向上を図るため、校内研修の充実や各種研修会の参加奨励に努めるとともに、生徒や教職員が安全で安心して学校生活を送れるよう、施設の修繕や大規模改修などの環境整備を行います。

**[主要施策（関連施策抜粋）]**

1. 幼児の教育環境の充実
2. 認定こども園、幼稚園、保育園、小学校などの連携強化
3. 「生きる力」を育む教育の推進
4. 子どもの健やかな成長をめざした学校・家庭・地域の連携
5. いじめ・不登校への対策や相談体制の充実
6. 安全・安心な学校
 

- (1) 通学路の点検を行い、登下校時の安全を確保し、安心できる通学路とするよう整備充実を図ります。
  - (2) 子どもたちが安全に学校生活を送れるよう施設整備に努め、校舎等の計画的な整備を図ります。
7. 施設整備および教育環境の充実
 

- (1) 施設の整備（修繕）を進め、学習環境の充実に努めます。
  - (2) 教材・教具の整備や各種行事への支援、バス通学費の助成を行います。
8. 教職員の資質向上

(5) 士別市公共施設白書〔平成28年(2016年)3月〕

市が保有する公共施設の管理状況等について整理されています。

図表 1-12 施設数量等



## (6) 士別市公共施設マネジメント基本方針 [平成 28 年(2016 年) 5 月]

改修・改築時期を迎える公共施設の更新に関する財政負担の軽減を目指し、市が保有する公共施設の今後のあり方についての基本的な考え方を示すとともに、公共施設の適切な維持管理（保全、修繕、建替え等）や再編（複合化、統廃合、民間活用等）に関する基本的な方針を示すことを目的に策定されています。

図表 1-13 公共施設マネジメント基本方針

### <基本方針>

#### [ 方針および取組の視点 ]

方針 1：公共サービス提供のあり方や公共施設の配置を見直し「最適化」します。

##### 視点① サービス提供主体の最適化

- ・市民の意向や利用実態などを踏まえ、公共サービスのあり方や性質について検証し、サービス提供主体の最適化を図ります。

##### 視点② 施設保有量・配置の最適化

- ・施設保有量やサービス提供拠点（施設）の配置状況、市内全体と地区毎にみた各施設の利用圏域などを踏まえ、適切な施設量や配置状況を精査し、複合化や統廃合を含めた検討を進めます。

##### 視点③ 低・未利用建物、土地の有効活用

- ・今後においても、利活用の計画がない建物や土地については、民間への賃貸や売却を進めるとともに、有効活用について検討を進めます。

方針 2：公共施設の管理や運営方法を見直し「効率化」します。

##### 視点① 施設の利用促進

- ・各施設の利用実態や政策・施策の方向性などを踏まえ、多機能化や周辺自治体との連携強化などにより、施設の利用促進と有効活用に努めます。

##### 視点② 管理運営の効率化・民間活力の導入

- ・管理運営方法を見直すなど、一層効率的で費用の縮減に結びつく管理運営方法の見直しを進めます。また、一部の施設で導入している指定管理者制度のほか、PPP/PFIなど民間活力の導入についても検討を進めます。

##### 視点③ 新たな財源確保の取り組み

- ・税収や市債の発行、基金の活用依存しない資金調達の仕組みについて検討を進めます。また、受益者負担の原則という視点のもと、施設利用料金についても、適宜見直しを図ります。

方針 3：安全・安心を第一に、今ある公共施設を「長寿命化」します。

##### 視点① 既存建物の耐震化

- ・改修や建替えの必要性が高い施設を把握し、耐震診断や必要な改修を行います。

##### 視点② 効果的な維持管理手法の確立と長寿命化

- ・定期点検や管理基準の明確化、計画的な予防保全など、効果的な維持管理手法により、建物の生涯的な維持管理費の低減をめざします。また、費用を抑えた建替えのほか、施設の長寿命化を図り、建替え時期の分散と費用の平準化をめざします。

##### 視点③ 施設情報の一元的管理

- ・今後、公共施設を適切に管理運営していくため、財産台帳を基本に、施設の基礎的情報を一元管理するとともに、公会計制度による固定資産台帳との連携も視野に入れ、適切な管理に向けた取り組みを進めます。



(7) 士別市公共施設マネジメント基本計画 [平成28年(2016年)5月]

3期25年からなり、そのうち計画期間の第1期を平成29年(2017年)から平成37年(2025年)までの9年間とし、公共施設マネジメント基本方針に基づいた各公共施設の維持管理の方向性が整理されています。

図表 1-14 市民利用施設の方向性(小学校)

■ 小学校			
<p>&lt;施設の概況&gt;</p> <p>◇小学校は、現在、市内に8校あり、学校の規模をみると、中央地区の士別小学校と士別南小学校の児童数は300人程度であり、各学年50~70人程度で一定の規模を維持しています。しかし、その他の小学校の児童数は、士別西小学校で約150人、他の5校では10~50人程度であり、複式学級を編成する学校もあります。</p> <p>◇今後も進捗が想定される少子化への対応のため、平成23年(2011年)に策定した「士別市小中学校適正配置計画」についても、平成28年度に見直しを実施しているところです。</p> <p>◇校舎や体育館の建設時期は、学校によって異なっていますが、8校中5校で築後30年以上経過しており、老朽化が進行しています。</p>			
評価項目	現状と課題		評価
サービスの視点	提供主体	●学校教育法の規定では、学校の設置者は国・地方公共団体、学校法人とされているなかで、義務教育の機会を保障するため、行政が直営で必要な規模のサービスを継続的に提供する必要があります。	行政主体
	提供場所	●小学校は、平成25年(2013年)から中央地区の4校と朝日・上士別・多寄・温根別の各地区に1校ずつの計8校となっており、地域性を考慮した配置となっています。なお、今後においても、児童が安全・安心に通学できるよう配慮が必要です。	地域的
建物の視点	供給量	●今後、さらなる児童数の減少に伴い、学校の授業以外にも、様々な用途で使用可能な特別教室など、汎用性の高いスペースや余裕教室の増加が見込まれるため、「士別市小中学校適正配置計画」を踏まえ、適正な建物規模への見直しや有効活用を検討する必要があります。	やや多い
	汎用性	●教育上の目的や児童の安全管理面から、専門機能は必要ですが、特別教室や余裕教室などを放課後に有効活用するなどの運用は可能です。 ●8校中5校で、校舎や体育館が築後30年以上経過しているため、老朽化対策が必要です。	やや高い
その他分野横断的な考え			
◇学校施設の有効活用を行う場合、教育の場であるということを念頭に置くとともに、地域コミュニティの拠点としての側面を持つということにも配慮しながら検討していく必要があります。			
<p>&lt;施設の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆統廃合</li> <li>◆建替え時における施設規模の縮小</li> <li>◆複合化・多機能化(用途転用)</li> </ul> <p>※今後の小学校の再編などについては、「士別市小中学校適正配置計画」に基づき、検討を進めていきます。</p>			

図表 1-15 市民利用施設の方向性（中学校・高等学校）

■中学校			
<p>＜施設の概況＞</p> <p>◇中学校は、現在、市内に5校あり、学校の規模をみると、中央地区の士別中学校と士別南中学校の生徒数は200人程度であり、各学年60～80人程度で一定の規模を維持しています。しかし、他3校の生徒数は20～30人程度であり、各学年の生徒数が10人未満の学校もあるため、小学校同様、「士別市小中学校適正配置計画」により、配置の適正化を図っています。</p> <p>◇中学校のうち、朝日中学校は、築後30年以上が経過しています。その他の中学校はいずれも新耐震基準を満たす建物となっており、長寿命化などによる計画的な運用が必要です。</p>			
評価項目	現状と課題		評価
サービスの視点	提供主体	●小学校同様、行政が直営で必要な規模のサービスを継続的に提供する必要があります。	行政主体
	提供場所	●中学校は、平成26年（2014年）から中央地区に2校と朝日・上士別・多寄の各地区に1校ずつの計5校となっており、地域性を考慮した配置となっています。なお、今後においても、生徒が安全・安心に通学できるよう配慮が必要です。	地域的
建物の視点	供給量	●今後、さらなる生徒数の減少に伴い、学校の授業以外にも、様々な用途で使用可能な特別教室など、汎用性の高いスペースや余裕教室の増加が見込まれるため、適正な建物規模への見直しや有効活用を検討する必要があります。 ●本市は行政面積が広いため、各学校の通学圏域の範囲も広がっていますが、類似団体と比較して、人口当たりの延床面積はやや多く、学校数も比較的多い状況です。	やや多い
	汎用性	●教育上の目的や生徒の安全管理面から、専門機能は必要ですが、特別教室や余裕教室などを放課後に有効活用するなどの運用は可能です。 ●朝日中学校は、築後30年以上が経過し老朽化が進行している一方、その他の中学校は近年、建替えや耐震改修を実施し、いずれも新耐震基準を満たす建物となっており、長期的・計画的な展望が必要です。	やや高い
その他分野横断的な考え			
◇学校施設の有効活用を行う場合、教育の場であるということ念頭に置くとともに、地域コミュニティの拠点としての側面を持つということにも配慮しながら検討していく必要があります。			
<p>＜施設の方向性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆統廃合</li> <li>◆建替え時における施設規模の縮小</li> <li>◆複合化・多機能化（用途転用）</li> </ul> <p>※今後の中学校の再編などについては、「士別市小中学校適正配置計画」に基づき、検討を進めていきます。</p>			
■高等学校			
<p>＜施設の概況＞</p> <p>◇高等学校については、市立の士別東高等学校のほか、道立の士別翔雲高等学校の2校があります。また、東高校の生徒数は、市外からの通学者も含め、全学年で20人程度となっています。</p> <p>◇東高校の校舎や体育館などの主要な建物は、築後40年から55年程度が経過する木造建築物であるため、継続した使用は困難な状況となっています。</p>			
評価項目	現状と課題		評価
サービスの視点	提供主体	●東高校については、少子化に伴い生徒数が減少していることや道立の翔雲高校が設置されていることなどから、国の動向を注視するとともに北海道とも連携しつつ、今後のあり方を検討していく必要があります。	行政主体
	提供場所	●生徒は、市内各地から公共交通機関を利用して通学可能であり、サービスの提供場所は特定の地域に限定されません	広域的
建物の視点	供給量	●少子化の進行に伴い、今後も生徒数は減少する見込みであり、翔雲高校などの動向にあわせて、東高校のあり方を見直していく必要があります。 ●他の自治体では、高等学校を設置している事例は多くありません。（16の類似団体中、市立高校を設置しているのは3団体）。	多い
	汎用性	●施設を構成する空間は、主に教室であり、学校の授業以外にも様々な用途で使用可能であることから汎用性が高いものの、老朽化が進んでいます。	やや高い
その他分野横断的な考え			
◇生徒数が減少していくことを踏まえ、東高校のあり方を検討していく必要があります。			
<p>＜施設の方向性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆周辺自治体との相互利用・共同運営（広域化）</li> <li>◆統廃合</li> <li>◆建替え時における施設規模の縮小</li> <li>◆複合化・多機能化(用途転用)</li> </ul> <p>※東高校の老朽化は著しく、継続した使用は困難な状況となっていることから、今後の施設のあり方について早急に検討します。</p>			

( 8 ) 士別市小中学校適正配置計画 [平成 29 年(2017 年)2 月 (平成 28 年度改訂)]

本児童生徒数の減少に伴う学校の小規模化が進行するなか、集団で行うことを基本とする学校教育の展開や、児童生徒の健やかな成長を促す環境づくりに向け、改築や改修、統廃合も含めた学校施設の適正配置を目的に策定されています。

図表 1-16 学校適正配置計画

<b>&lt;学校適正配置の基本的な考え方&gt;</b>			
<b>[学校のあり方の基準]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆学校規模は、学校教育法施行規則第 41 条の規定により、小学校の学級数について 12 学級以上 18 学級以下を標準としており、中学校についても同規則第 79 条の規定で、これを準用するとされている。</li> <li>◆北海道教育委員会の学校標準規模指針では中学校は 9 学級以上 18 学級以下を標準としている。</li> <li>◆本市では過小規模校の解消にむけ、「適正配置対象校基準」を設けているが、平成 23 年以後の耐震化の必要性や市財政の状況等も勘案し、今後は学校規模に関わらず統合の対象としていくものとする。</li> </ul>			
<b>[学校規模 (平成 28 年)]</b>		<b>[適正配置対象校基準]</b>	
区分	学級数	小学校	中学校
適性規模校	12~18	2	0
小規模校	6~11	1	2
過小規模校	1~5	5	3
区分	在校者数	学級数	基準設定理由
小学校	10 人以下	3 学級以下	教頭学級担任 養護教諭未配置
中学校	10 人以下	2 学級以下	教頭・養護教諭未配置
<b>&lt;学校の適正配置の考え方&gt;</b>			
<b>[1. 小学校に対する基本的な考え方]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆小学校は、地域のシンボルであり、地域コミュニティの拠点で、学校と地域が一体となって教育活動が展開されているなど、小学校の存在は、地域住民にとって、心の拠りどころとも言える精神的な意義を有していることから、可能な限り地域に存続させることを基本とする。</li> </ul>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>① 地域的繋がりが深く、学校間での多様な交流が頻繁に行われる、現在の中学校区内の小学校同士で再編することを基準とする。</li> <li>② 複式学級編成の懸念や極端な少人数学級を解消する学校規模とする。</li> </ol>			
<b>[2. 中学校に対する基本的な考え方]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆中学校は、生徒数が徐々に減少していく中で、充実した集団活動の展開や指導体制を確立する必要があるため、適正配置の実施により、学校の集約化を図る。</li> </ul>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>① 人間関係の固定化による弊害解消のため、クラス替え効果が期待できる、1 学年 2 学級以上の学校規模で再編することを基本とする。</li> <li>② 地域的な一体性が、小学校より緩やかなものとなっており地域を取り巻く社会情勢の変化に柔軟に対応した再編を図る。地域的繋がりが深く、学校間での多様な交流が頻繁に行われる、現在の中学校区内の小学校同士で再編することを基準とする。</li> <li>③ 複式学級編成の懸念や極端な少人数学級を解消する学校規模とする。</li> </ol>			
<b>&lt;学校の適正配置基本計画&gt;</b>			
<b>[1. 第 2 期計画期間に改築を進める学校 (朝日中学校)]</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆過小規模校の内、朝日中学校は耐力度調査を実施し、新耐震校舎として改築を検討する。</li> </ul>			
<b>(1) 改築時期及び実施方法</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 2 期計画期間内で改修を行う、生徒数、教員数の推移に留意しながら時期を決定する。</li> <li>・新耐震化のための工法と糸魚小学校の体育館の共有化を視野に改築を検討する。</li> </ul>			
<b>(2) 改築概要</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝日中学校は、既存の校舎の一部 (2 線校舎) を有効活用し、新たに建設する建物については必要最小限の範囲にとどめ、新耐震化のための工法と糸魚小学校の体育館の共有化を視野に改築を検討する。</li> </ul>			

## 第2章 学校施設の実態

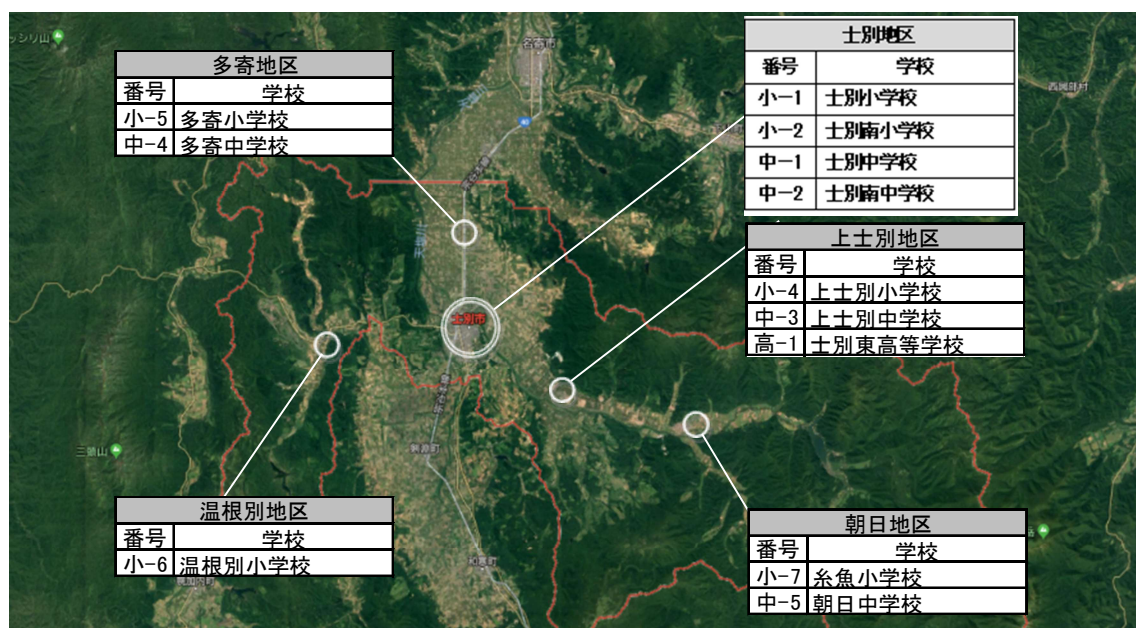
### 1 学校施設の運営状況・活用状況等の実態

#### (1) 対象施設一覧

平成31年(2019年)4月現在、本市が管理する学校教育系施設は小学校6校、中学校5校、高校1校の合計12校です。延床面積は、小学校では22,321㎡、中学校では23,182㎡、高校では1,665㎡となり、対象施設全てを合わせた延床面積は47,168㎡になります。

図表2-1 対象施設一覧(平成31年4月現在)

	学校名	建築年度	延床面積	住所
小学校	1 士別小学校	H7, 8	6, 250	士別市東3条北3丁目
	2 士別南小学校	S54, 55	7, 109	士別市東4条14丁目
	3 上士別小学校	H28	2, 270	士別市上士別町16線南2
	4 多寄小学校	H21	881	士別市多寄町37線西2
	5 温根別小学校	S46, 53, 60	1, 933	士別市温根別町南1線
	6 糸魚小学校	H19	3, 878	士別市朝日町中央4050
	計		22, 321	
中学校	1 士別中学校	H17, 18	5, 772	士別市東6条北9丁目
	2 士別南中学校	H3, 4	6, 549	士別市東4条17丁目
	3 上士別中学校	H28	2, 370	士別市上士別町16線南2
	4 多寄中学校	H11	3, 831	士別市多寄町37線西2
	5 朝日中学校	S38, 50, 51	4, 660	士別市朝日町中央4050
	計		23, 182	
高校	1 士別東高等学校	S34, 35, 39	1, 665	士別市上士別町15線南3
	計		1, 665	
合計			47, 168	



## 2 児童生徒数および学級数の変化

### (1) 児童生徒数および学級数の状況

平成31年(2019年)4月現在の児童生徒数および学級数の状況は、小学校の児童数は745人、学級数は60学級となっています。中学校の生徒数は424人、学級数は32学級となっています。高等学校も含めた合計では、児童生徒数は1,196人、95学級となっています。

図表2-2 学校施設の生徒数等の状況(平成31年4月現在)

名 称	建築年度	児童生徒数(人)			学級数(学級)			
		通常 学級	特別 支援	計	通常 学級	特別 支援	計	
小 学 校	1 士別小学校	H7, 8	308	17	325	12	6	18
	2 士別南小学校	S54, 55	302	23	325	12	10	22
	3 上士別小学校	H28	25	0	25	3	0	3
	4 多寄小学校	H21	14	2	16	3	1	4
	5 温根別小学校	S46, 53, 60	9	3	12	3	3	6
	6 糸魚小学校	H19	36	6	42	4	3	7
	計		694	51	745	37	23	60
中 学 校	1 士別中学校	H17, 18	177	8	185	6	4	10
	2 士別南中学校	H3, 4	179	5	184	6	3	9
	3 上士別中学校	H28	15	1	16	3	1	4
	4 多寄中学校	H11	15	1	16	3	1	4
	5 朝日中学校	S38, 50, 51	21	2	23	3	2	5
	計		407	17	424	21	11	32
高 校	1 士別東高等学校	S34, 35, 39	22	-	22	3	-	3
	計		22	-	22	3	-	3
合 計			1,123	68	1,196	61	34	95

## (2) 学校数および児童生徒数の推移と将来推計

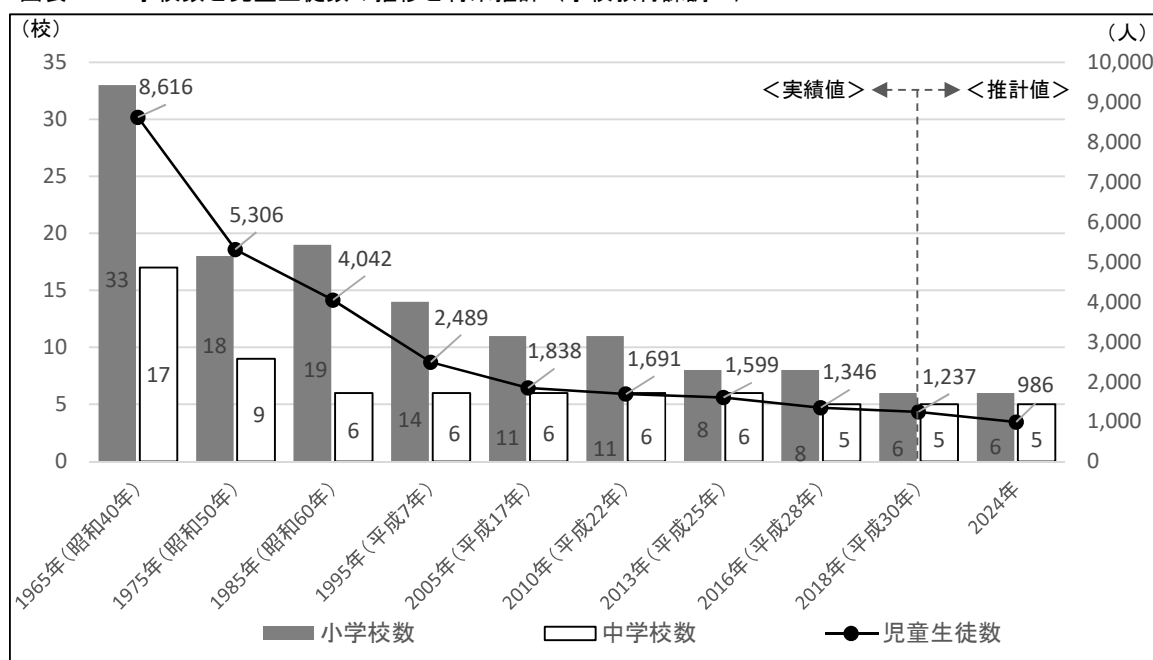
学校数は、旧土別市および旧朝日町の合計で、昭和40年（1965年）には小学校が33校、中学校17校の合計50校をピークに昭和60年（1985年）には25校に半減し、平成30年（2018年）には小学校7校、中学校5校の合計13校となっています。

児童生徒数は、昭和40年の8,616人をピークに平成17年（2005年）には1,838人に減少、平成30年現在は1,237人となっています。

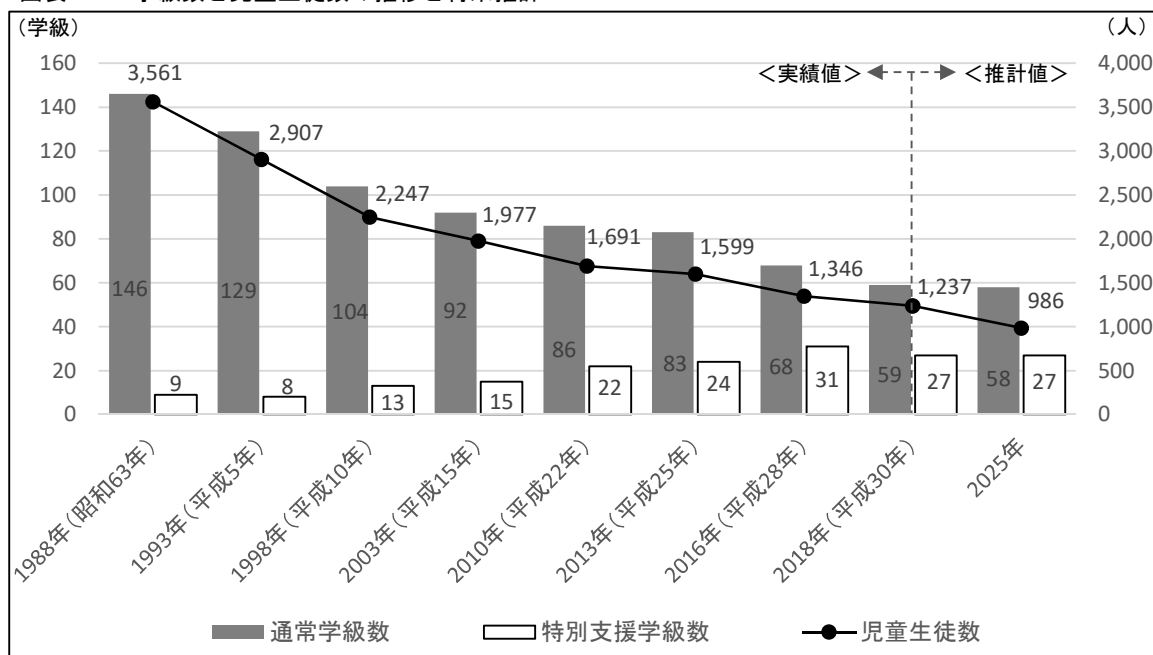
通常学級数は児童生徒数の減少に伴い、昭和63年（1988年）は146学級でしたが、平成30年は59学級と半数以下になっています。

なお、特別支援学級は昭和63年の9学級に対し、平成30年は27学級で3倍となっています。

図表 2-3 学校数と児童生徒数の推移と将来推計（学校教育課調べ）



図表 2-4 学級数と児童生徒数の推移と将来推計



### (3) 学校ごとの児童生徒数および学級数の将来推計

学校ごとの児童生徒数および学級数の将来推計は、下の表となります。

本計画策定から4年後にあたる2024年における小学校の児童数は合計で604人であり、2019年と比較すると18.9%の減少となります。また、中学校の生徒数は373人であり、12.0%の減少となります。

図表 2-5 児童生徒数と学級数の将来推計（学校教育課調べ）

学校		2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	
小学校	士別	生徒数	325	301	280	263	256	244
		[学級数]	18	17	14	13	12	11
	士別南	生徒数	325	312	312	301	294	281
		[学級数]	22	20	15	15	15	13
	上士別	生徒数	25	28	29	28	26	25
		[学級数]	3	5	4	3	3	3
	多寄	生徒数	16	17	19	22	23	20
		[学級数]	4	6	5	5	4	3
	温根別	生徒数	12	12	11	11	12	12
		[学級数]	6	5	4	4	3	3
	糸魚	生徒数	42	34	33	29	25	22
		[学級数]	7	7	6	5	4	4
	計	生徒数	<b>745</b>	<b>704</b>	<b>684</b>	<b>654</b>	<b>636</b>	<b>604</b>
		[学級数]	60	60	48	45	41	37
中学校	士別	生徒数	185	211	207	202	180	175
		[学級数]	10	10	9	10	10	10
	士別南	生徒数	184	177	167	165	159	165
		[学級数]	9	12	10	11	9	9
	上士別	生徒数	16	18	15	14	13	13
		[学級数]	4	3	3	3	3	3
	多寄	生徒数	16	※士別中学校へ統合				
		[学級数]	4					
	朝日	生徒数	23	18	13	17	18	20
		[学級数]	5	4	3	3	3	3
	計	生徒数	<b>424</b>	<b>424</b>	<b>402</b>	<b>398</b>	<b>370</b>	<b>373</b>
		[学級数]	32	29	25	27	25	25

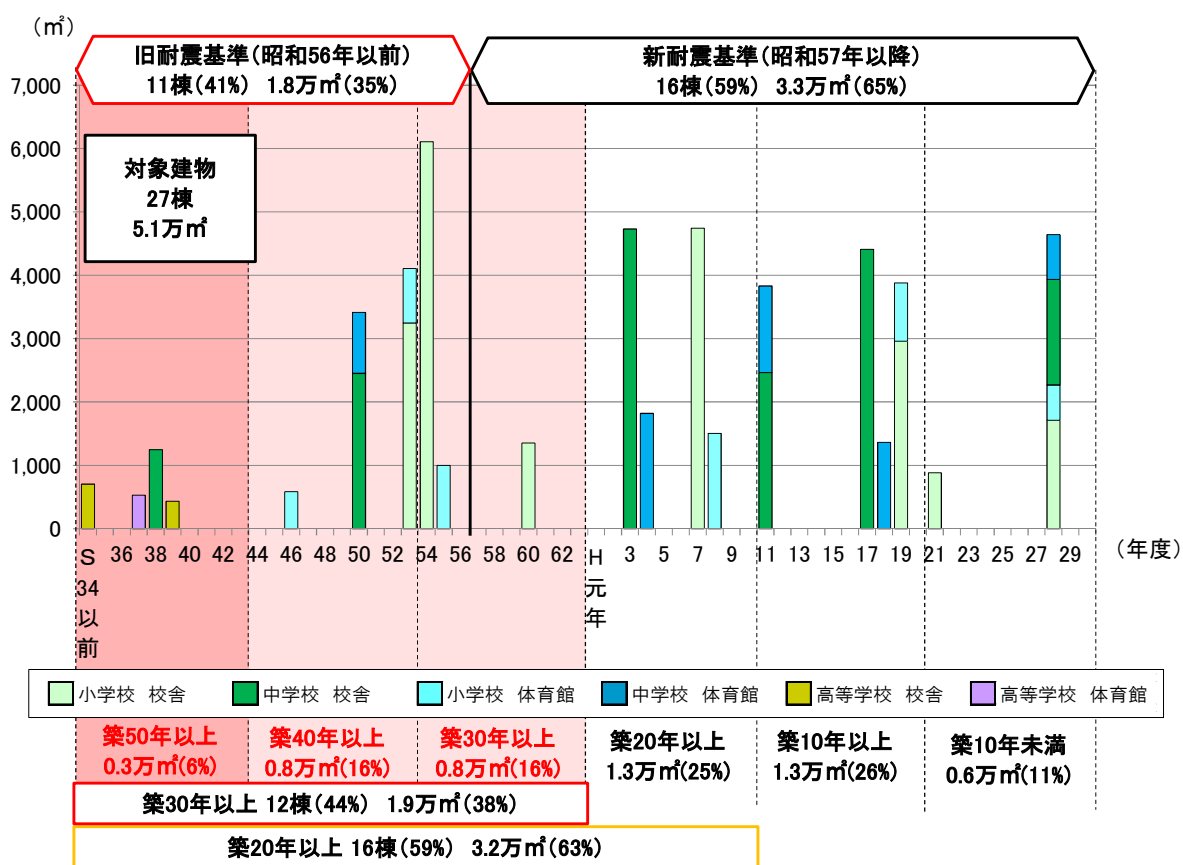
### 3 学校施設の保有量

本市が保有する学校施設は、平成 30 年（2018 年）4 月現在 27 棟で、延床面積は約 5.1 万㎡となり、建築年別の整備状況で示すと下の図となります。

延床面積比として、築 40 年以上の施設は全体の約 22%、さらに昭和 50 年代に学校建設のピークがあるため、築 30 年以上の施設は 38%と 3 割を越えています。

また、旧耐震基準（昭和 56 年以前）で建てられた学校施設については 10 棟となっています。これらの施設については、耐震化を優先して進めてきていますが、朝日中学校で耐震化が必要な建物が 2 棟残されています。

図表 2-6 建築年別整備状況





図表 2-7 建物別施設の状況（平成 31 年 4 月現在）

種別	施設名	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度		耐震診断				耐震補強			
						和暦	築年数	基準	診断	調査年度	IS 値	補強	年度	IS 値	
小学校	1 士別小学校	校舎 1	RC	3	4,745	H7	24	新							
		体育館	RC	1	1,505	H8	23	新							
	2 士別南小学校	校舎 1	RC	3	6,108	S54	40	旧	済	H22	0.29	済	H22	0.71	
		体育館	S	1	1,001	S55	39	旧	済	H22	0.14	済	H22	0.81	
	3 上士別小学校	校舎 1	RC	1	1,711	H28	3	新							
		体育館	S	1	559	H28	3	新							
	4 多寄小学校	校舎 1	RC	1	881	H21	10	新							
	5 温根別小学校	校舎 1	RC	2	1,351	S60	34	新							
		体育館	S	1	582	S46	48	旧	済	H28	0.38	済	H29	0.91	
	6 糸魚小学校	校舎 1	w	1	2,956	H19	12	新							
体育館		S	1	922	H19	12	新								
中学校	1 士別中学校	校舎 1	RC	2	4,410	H17	14	新							
		体育館	RC	1	1,362	H18	13	新							
	2 士別南中学校	校舎 1	RC	2	4,730	H3	28	新							
		体育館	RC	1	1,819	H4	27	新							
	3 上士別中学校	校舎 1	RC	2	1,666	H28	3	新							
		体育館	S	2	704	H28	3	新							
	4 多寄中学校	校舎 1	RC	2	2,456	H11	20	新							
		体育館	RC	1	1,366	H11	20	新							
	5 朝日中学校	校舎 1	RC	3	2,451	S50	44	旧	済	H21	0.37	未			
		校舎 2	RC	2	1,246	S38	56	旧	済	H21	0.62				
体育館		S	1	963	S50	44	旧	済	H21	0.15	未				
高校	1 士別東高等学校	校舎 1	RC	1	705	S34	60	-							
		校舎 2	W	1	432	S39	55	-							
		体育館	S	1	528	S37	57	-							
合計		27 棟	51,272 ㎡												

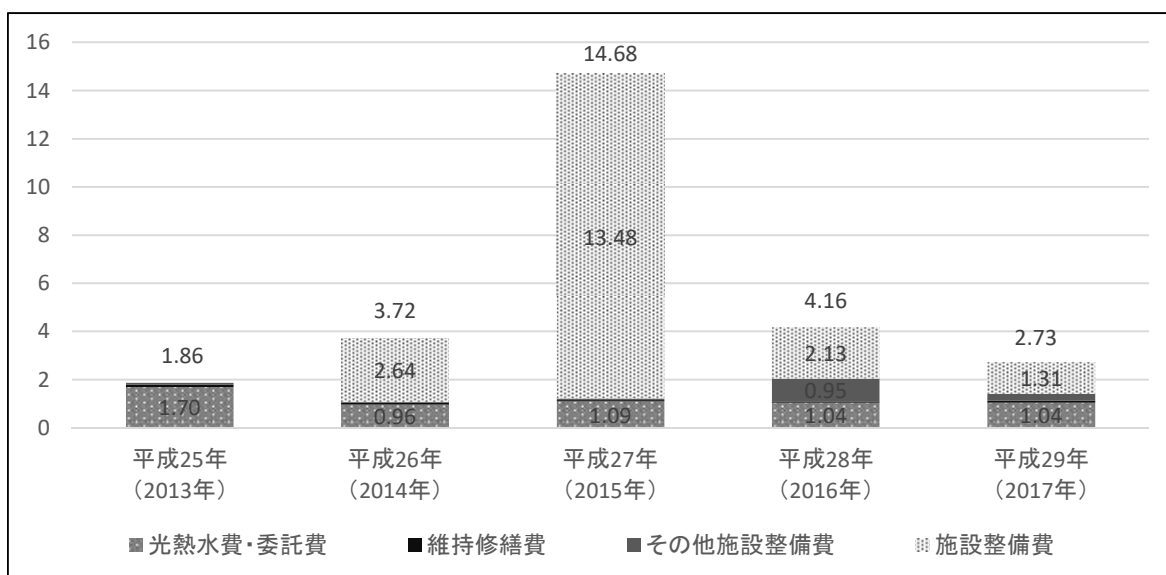
#### 4 施設関連経費の推移

過去5年間の学校施設における施設整備費と施設管理費を合計した施設関連経費は、約1.9億～14.7億円で、5年間の平均は5.4億円/年となります。

今後、学校施設整備に充てられる経費は、市全体の予算調整を行う中で決定していくこととなりますが、この5.4億円/年を「長寿命化によるコスト試算の比較と検証」における基準額として設定します。

図表 2-8 施設関連経費の推移

(単位：億円)



(単位：千円)

	種別	平成25年 (2013年)	平成26年 (2014年)	平成27年 (2015年)	平成28年 (2016年)	平成29年 (2017年)
施設整備費	小学校	0	129,126	640,824	153,371	53,751
	中学校	0	134,811	707,624	59,303	77,209
	高等学校	0	0	0	0	0
	計	0	263,937	1,348,448	212,674	130,960
その他 施設整備費 (グラウンド他)	小学校	2,959	1,941	3,948	40,158	29,910
	中学校	4,752	513	1,891	55,270	150
	高等学校	0	1,200	0	0	0
	計	7,711	3,654	5,839	95,428	30,060
維持修繕費	小学校	4,829	5,143	4,196	3,106	3,035
	中学校	3,730	3,313	1,567	1,263	4,537
	高等学校	569	395	396	264	211
	計	9,128	8,851	6,159	4,633	7,783
光熱水費 ・委託費	小学校	79,829	52,797	61,824	62,157	59,448
	中学校	86,991	39,923	44,383	38,806	41,109
	高等学校	2,874	2,868	2,832	3,125	3,171
	計	169,694	95,588	109,039	104,088	103,728
合計		186,533	372,030	1,469,485	416,823	272,531

## 5 学校施設の劣化状況の実態

### 5-1 学校施設の劣化状況の評価

本市が管理し、令和元年度以降も使用する学校施設等について、劣化状況調査票を用いて構造躯体以外の劣化状況の評価します。評価は「屋上・屋根、外壁」については目視により、また「内部仕上げ、電気・機械設備」については経年劣化により、下の表のA～D段階で評価します。

①目視による評価  
(屋上・屋根、外壁)

評価	基準(解説書)
A	概ね良好
B	部分的に劣化 (安全上、機能上、問題なし)
C	広範囲に劣化 (安全上、機能上、不具合発生の兆し)
D	早急に対応する必要がある (安全上、機能上、問題あり) (躯体の耐久性に影響を与えている) (設備が故障し施設運営に支障を与えている)等

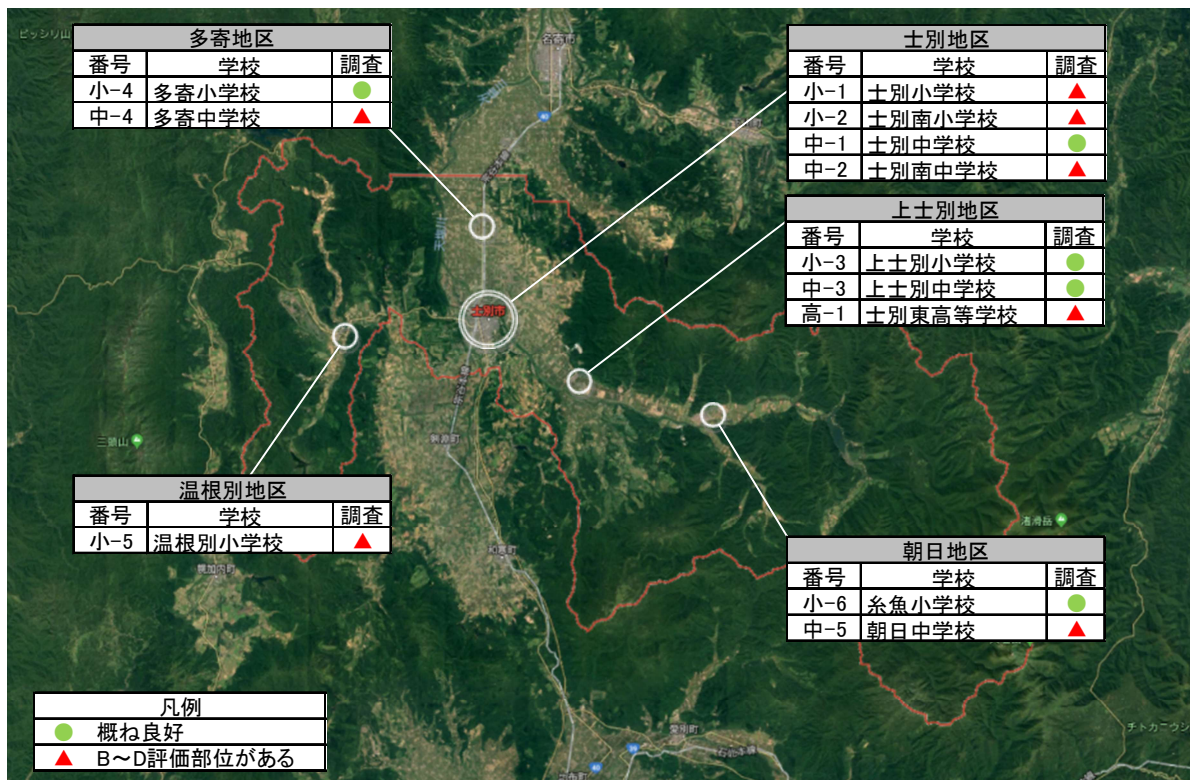
②経年劣化による評価  
(内部仕上げ、電気・機械設備)

評価	基準(解説書)
A	20年未満
B	20～40年
C	40年以上
D	経年劣化に関わらず著しい劣化事象がある場合

### 5-2 学校施設の劣化状況調査

評価を行った結果の概要を以下に整理します。また、施設毎の調査結果を次頁以降に整理します。

図表 2-9 劣化状況調査結果の概要



(1) 土別小学校

校舎は外壁の亀裂や塗装の剥離等の劣化箇所が多数見られます。その他、校舎内での雨漏りや部分的な破損等が見られます。

劣化状況評価										
建物名	構造	階数	延面積 (㎡)	建築年度		劣化状況				
				和暦	築年数	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1	RC	3	4,745	H7	23	B	B	B	B	B
体育館	RC	1	1,505	H8	22	B	B	B	B	B



<施設の状況・代表的な課題>

**1:外壁の亀裂**

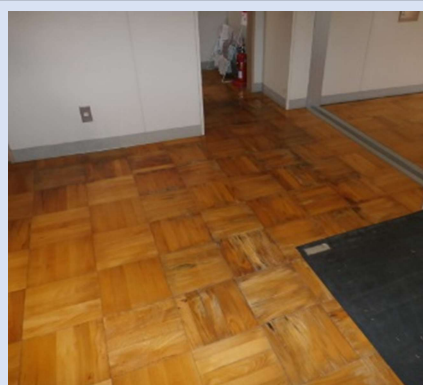
複数個所で見られる。



外壁

**4:床材の劣化**

床フローリングにシミ（カビ）が見られる。



廊下(1F和室前)

**2:外壁塗装の剥離(浮き)**

部分的な剥離が複数箇所で見られる。



外壁

**5:ガラスブロックの破損**

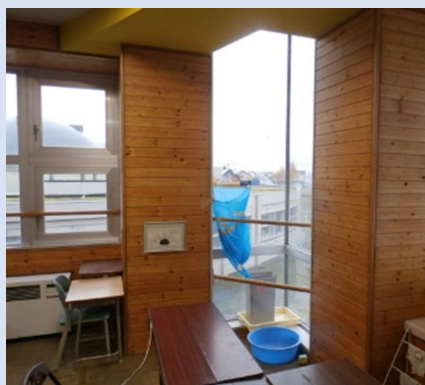
一部に破損が見られる。



児童玄関

**3:窓の雨漏り**

2階3階共に雨漏りが見られる。



多目的スペース

**6:水はけの悪い学校敷地**

ボイラー室に水が浸入することがある。  
(※学校から指摘)



敷地北側通路

## (2) 土別南小学校

校舎は耐震改修済みですが、改修前のもと思われる亀裂が、内壁や教室床等で多数見られます。その他、校舎内での雨漏りや部分的な破損等が見られます。

劣化状況評価										
建物名	構造	階数	延面積 (㎡)	建築年度		劣化状況				
				和暦	築年数	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1	RC	3	6,108	S54	39	C	C	B	B	B
体育館	S	1	1,001	S55	38	C	B	B	B	B



### < 施設の状況・代表的な課題 >

#### 1: 外壁塗装の剥離

部分的な剥離が複数箇所で見られる。



サッシ周辺

#### 2: 屋上防水の劣化

部分的な劣化が見られる。



屋上(トップコート)

#### 3: ポーチ床のタイル剥離

タイルの剥離は、ポーチの他に正面玄関前でも、同様に見られる。



ポーチ床

#### 4: 内壁の亀裂

耐震補強前に発生したと思われる内壁の亀裂が、部分的に見られる。



給食搬入室

#### 5: 天井の雨漏り

降雨時に雨漏りが常時見られる。(※学校から指摘)



西器具庫天井

#### 6: 床の亀裂

耐震補強前に発生したと思われる床の亀裂が、部分的に見られる。



教室

(3) 上土別小学校

近年整備された校舎であり、軽微な劣化以外の課題は無く、良好な状態となっています。

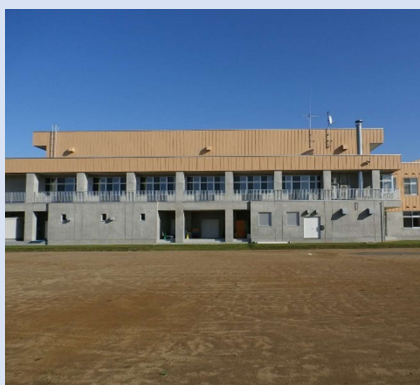
劣化状況評価										
建物名	構造	階数	延面積 (㎡)	建築年度		劣化状況				
				和暦	築年数	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1	RC	1	1,711	H28	2	A	A	A	A	A
体育館	S	1	559	H28	46	A	A	A	A	A



< 施設の状況・代表的な課題 >

1:外壁

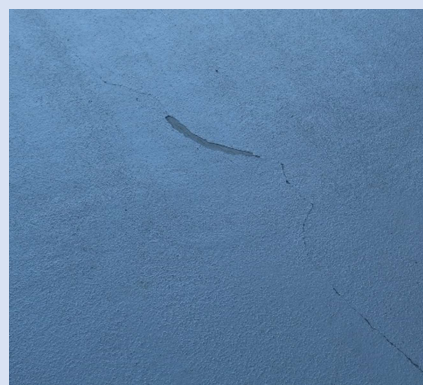
劣化等は見られず良好な状態。



校舎北面

4:床モルタル仕上げの亀裂

乾燥収縮によるヒビが見られる。



玄関ポーチ

2:屋上防水

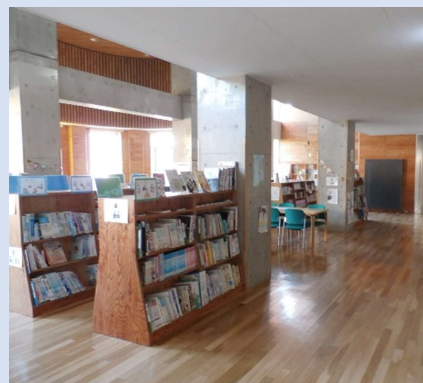
劣化等は見られず良好な状態。



屋上(アスファルト防水)

5:図書コーナー

劣化等は見られず良好な状態。



図書コーナー

3:玄関ポーチ屋根

劣化等は見られず良好な状態。



玄関ポーチ屋根

6:2階廊下

劣化等は見られず良好な状態。




2階廊下

#### (4) 多寄小学校

約10年前に整備された校舎であり、軽微な劣化以外の課題は無く、良好な状態となっています。

劣化状況評価										
建物名	構造	階数	延面積 (㎡)	建築年度		劣化状況				
				和暦	築年数	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1	RC	1	881	H21	9	A	A	A	A	A



#### < 施設の状況・代表的な課題 >

##### 1: 玄関周辺

劣化等は見られず良好な状態。



外壁(玄関周辺)

##### 2: 外壁・サッシ

劣化等は見られず良好な状態。



外壁(校舎南面)

##### 3: ポーチ床の浮き

床タイルの一部に浮きが見られる。(※学校から指摘)



玄関ポーチ

##### 4: 天井

劣化等は見られず良好な状態。



天井(多目的スペース)

##### 5: 体育館の接続廊下

劣化等は見られず良好な状態。



中学校体育館への接続廊下

##### 6: 床

劣化等は見られず良好な状態。



床(多目的スペース)

(5) 温根別小学校

校舎は近年、外壁や屋上防水の補修が行われており、体育館は耐震改修が行われています。校舎は部分的に経年劣化が見られるものの、概ね良好な状態となっています。

劣化状況評価										
建物名	構造	階数	延面積 (㎡)	建築年度		劣化状況				
				和暦	築年数	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1	RC	2	1,351	S60	33	A	A	B	B	B
体育館	S	1	582	S46	47	B	B	C	C	C



<施設の状況・代表的な課題>

**1:外壁の補修**

亀裂等の補修後に、全面的に塗装が施されている。



外壁

**2:外壁の補修**

外壁の塗装とともに、目地のシーリング材は、全面打ち直しがされている。



外壁

**3:外壁の亀裂**

複数箇所で見られる。(※トイレは現在使われておらず該当箇所は補修対象外)



体育館トイレ外壁(体育館付属部)

**4:体育館壁面の耐震補強**

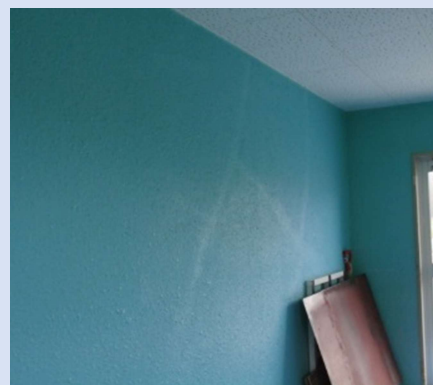
平成29年に耐震補強が行われている。



体育館(壁面耐震補強)

**5:内壁の亀裂**

改修前に発生したと思われる亀裂の跡が、見られる。(補修および塗装済み。)



給食搬入室

**6:2階廊下**

築30年以上を経過し、部分的な劣化は見られるものの、内装は概ね良好な状態。



2階廊下



## (6) 糸魚小学校

約15年前に整備された校舎であり、施設内に雨漏り跡が見られるほかは、軽微な劣化以外の課題は無く、良好な状態となっています。

劣化状況評価										
建物名	構造	階数	延面積 (㎡)	建築年度		劣化状況				
				和暦	築年数	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1	W	1	2,956	H19	11	B	A	A	A	A
体育館	S	1	922	H19	11	A	A	A	A	A



### < 施設の状況・代表的な課題 >

#### 1: 開口部周辺

劣化等は見られず良好な状態。



外壁・庇(菜園出入口)

#### 2: 軒下・サッシ 周辺

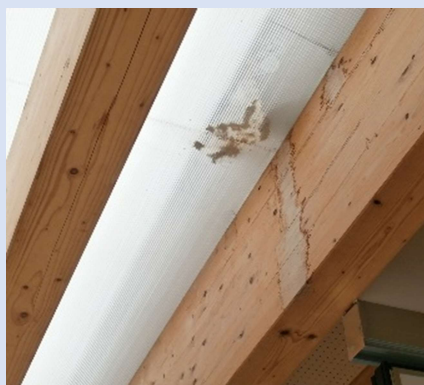
劣化等は見られず良好な状態。



外壁(校舎南面)

#### 3: 天井の雨漏り跡

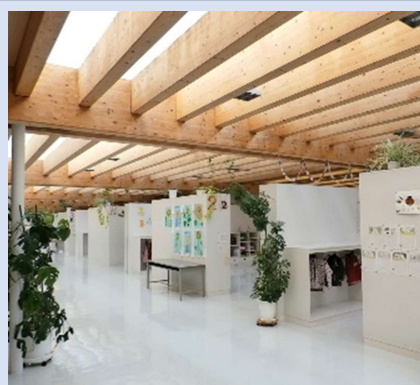
廊下天井の一部に雨漏り跡が見られる。



ひだまり教室前

#### 4: 廊下

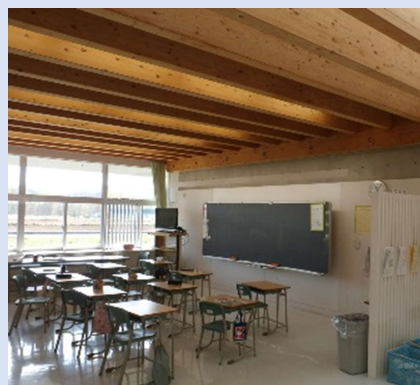
劣化等は見られず良好な状態。



廊下

#### 5: 普通教室

劣化等は見られず良好な状態。



教室

#### 6: 蛇口レバー の故障

一部に故障が見られる。



水飲み場

(7) 土別中学校

約15年前に整備された校舎であり、一部サッシ周りに小さな亀裂が見られるほかは、軽微な劣化以外の課題は無く、良好な状態となっています。

劣化状況評価										
建物名	構造	階数	延面積 (㎡)	建築年度		劣化状況				
				和暦	築年数	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1	RC	2	4,410	H17	13	A	A	A	A	A
体育館	RC	1	1,362	H18	12	A	A	A	A	A



<施設の状況・代表的な課題>

1:玄関

劣化等は見られず良好な状態。



外壁(正面玄関周辺)

4:煙突の塗装剥離

塗装の剥離が見られる。



ボイラー煙突

2:外壁の亀裂

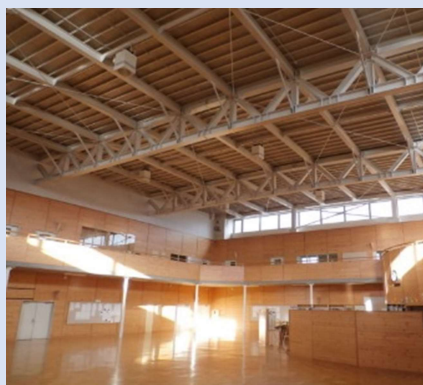
吸排気トップ周辺に亀裂が見られる。



外壁

5:多目的スペース

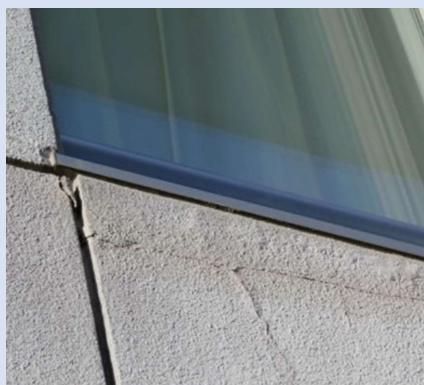
劣化等は見られず良好な状態。



多目的スペース

3:外壁の亀裂

サッシ周辺の充填モルタル部に亀裂が見られる。



外壁(サッシ周辺)

6:廊下

劣化等は見られず良好な状態。



廊下

( 8 ) 土別南中学校

校舎は屋上防水の劣化や外壁の亀裂、塗装の剥離等の劣化箇所が多数見られます。

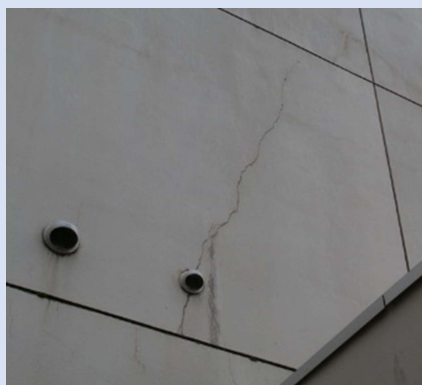
劣化状況評価										
建物名	構造	階数	延面積 (㎡)	建築年度		劣化状況				
				和暦	築年数	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1	RC	2	4,732	H3	27	C	C	B	B	B
体育館	RC	1	1,819	H4	26	C	C	B	B	B



< 施設の状況・代表的な課題 >

**1:外壁の亀裂**

複数箇所で見られる。



外壁

**2:外壁の亀裂**

サッシの隅部から放射状に延伸する亀裂が複数箇所で見られる。



外壁(サッシ周辺)

**3:外壁塗装の剥離(浮き)**

複数箇所で見られる。



外壁(サッシ周辺)

**4:外壁目地周辺の亀裂**

複数箇所で見られる。



外壁(目地周辺)

**5:屋上防水の劣化**

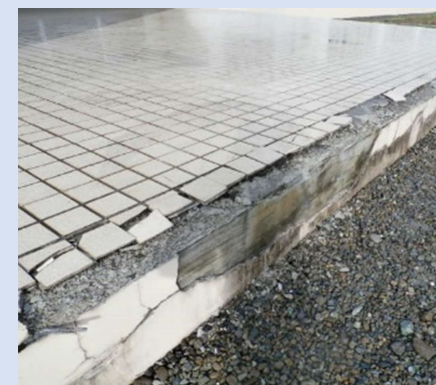
全面的に劣化が見られる。



屋上

**6:タイルの剥離**

部分的な剥離が見られる。



校舎南側テラス

(9) 上士別中学校

近年整備された校舎であり、軽微な劣化以外の課題は無く、良好な状態となっています。

劣化状況評価										
建物名	構造	階数	延面積 (㎡)	建築年度		劣化状況				
				和暦	築年数	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1	RC	2	1,666	H28	2	A	A	A	A	A
体育館	S	2	704	H28	2	A	A	A	A	A



<施設の状況・代表的な課題>

1:外壁

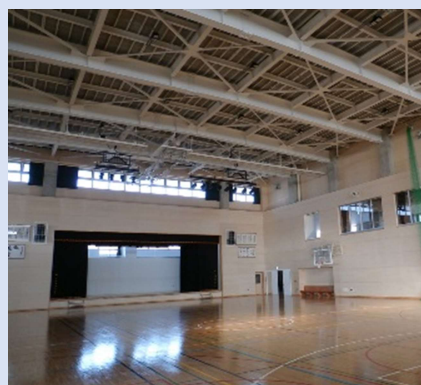
劣化等は見られず良好な状態。



外壁

4:体育館

劣化等は見られず良好な状態。



体育館

2:床モルタルの亀裂

乾燥収縮によるヒビが見られる。



玄関床

5:虫の侵入

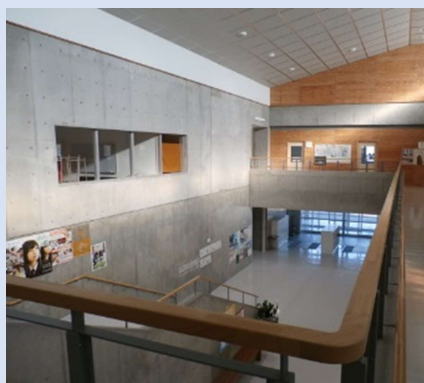
夏季に換気口を通じて虫の侵入が見られる。(※学校から指摘)



換気口

3:多目的ホール

劣化等は見られず良好な状態。



多目的ホール

6:土の流出

グラウンドは水はけが悪く降雨による土の流出が見られる。



グラウンド

(10) 多寄中学校

校舎は外壁の亀裂や塗装の剥離等の劣化箇所が多数見られます。その他、ストーブや暖房集中コントロール設備等の故障が見られます。

劣化状況評価										
建物名	構造	階数	延面積 (㎡)	建築年度		劣化状況				
				和暦	築年数	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1	RC	2	2,465	H11	19	A	C	A	A	B
体育館	RC	1	1,366	H11	19	A	C	A	A	A



< 施設の状況・代表的な課題 >

1:外壁の塗装剥離

吸排気トップ周辺に、亀裂および塗装剥離が複数箇所で見られる。



外壁

2:外壁の亀裂と塗装剥離

複数箇所で見られる。



外壁

3:外部の劣化

屋上煙突部に亀裂が見られる。



煙突

4:床の破損

部分的な破損が見られる。



ポーチ

5:黒板表面の劣化

黒板表面塗装の劣化が見られる。(チョーク跡が消えにくい。)



教室

6:ストーブの老朽化

機器が古く修理が出来ないため、使用頻度が低い部屋から移設し対応している。  
(※学校から指摘)



ストーブ

( 1 1 ) 朝日中学校

校舎は屋上防水、屋根等に劣化箇所が見られます。その他、校舎1の東西面は階段室となっていますが、歪みによる亀裂が多数見られます。

劣化状況評価										
建物名	構造	階数	延面積 (㎡)	建築年度		劣化状況				
				和暦	築年数	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎1	RC	3	2,451	S50	43	C	B	C	C	C
校舎2	RC	2	1,246	S38	55	C	B	C	C	C
体育館	S	1	963	S50	43	C	C	C	C	C



< 施設の状況・代表的な課題 >

**1: 屋上防水の劣化**

全面的に劣化が見られる。



屋上(校舎1 玄関)

**4: 廊下天井の雨漏り跡**

複数箇所で見られる。



天井(渡り廊下)

**2: 屋根の劣化**

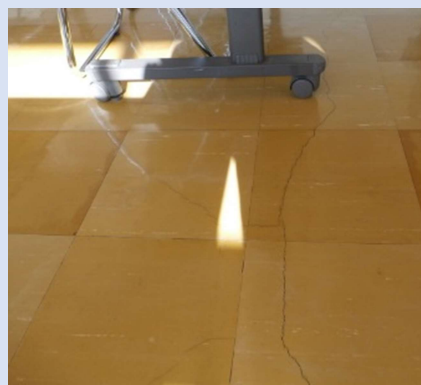
板金および塗装に劣化が見られる。



渡り廊下

**5: 床の亀裂**

部分的に亀裂が見られる。



教室

**3: 壁面の亀裂**

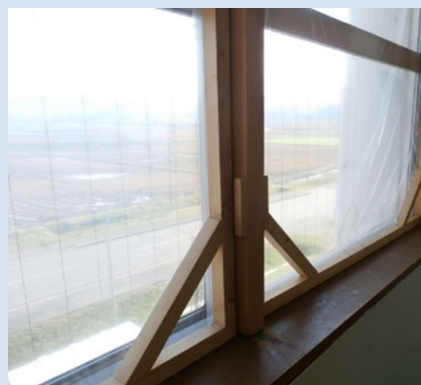
校舎1 東西面の階段室は、双方とも多数の亀裂が見られる。



階段壁面(校舎1)

**6: 窓の防寒対策**

築40年以上を経過し、サッシは気密性が低下している。



廊下

( 1 2 ) 土別東高等学校

校舎は昭和 30 年代に建設され、これまで大規模な補修等を行われておらず、老朽箇所や外壁の損傷箇所が多数見られます。その他、校舎内での雨漏りや部分的な破損等が多数見られます。

劣化状況評価										
建物名	構造	階数	延面積 (㎡)	建築年度		劣化状況				
				和暦	築年数	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
校舎 1	RC	1	705	S34	59	D	D	C	D	C
校舎 2	W	1	432	S39	54	C	C	C	C	C
体育館	S	1	528	S37	56	D	C	C	C	C



< 施設の状況・代表的な課題 >

**1:側壁の破損**

経年劣化による損傷および内部鉄筋の露出が複数箇所で見られる。



側壁(校舎棟)

**2:基礎モルタルの剥離**

複数箇所で見られる。



外壁(校舎棟)

**3:屋根の劣化**

板金および軒先周辺に劣化が見られる。



屋根

**4:天井の破損**

経年的な雨漏りによる破損が見られる。



トイレ(校舎棟)

**5:天井の雨漏り跡**

複数箇所で見られる。



廊下(職員室前)

**6:分電盤内部への雨水の侵入**

廊下天井から分電盤内に雨水の浸入が見られる。(※学校から指摘)



廊下(分電盤)

### 5-3 構造躯体の健全性の評価及び構造躯体以外の劣化状況等の評価

学校施設の劣化状況は、全般的に劣化が顕著な建物のほか、屋根・屋上、外壁等の部位でC～D判定となる施設もみられます。

特に、士別東高等学校は全棟築後50年を経過しており、外壁自体の劣化が進行し、改善等による長期活用が難しい状況にあります。

また、耐震安全性では、朝日中学校の校舎1および体育館で耐震補強の必要があります。

図表 2-10 学校施設の劣化状況評価

施設名	建物名	構造	階数	延床面積 (㎡)	建築年度			構造躯体の健全性					劣化状況評価					備考		
					西暦	和暦	築年数	耐震安全性			長寿命化判定			屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備		機械設備	健全度 (100点満点)
								基準	診断	補強	調査年度	圧縮強度 (N/㎡)	試算上の区分							
士別小学校	校舎1	RC	3	4,745	1995	H7	23	新						B	B	B	B	B	75	
士別小学校	体育館	RC	1	1,505	1996	H8	22	新						B	B	B	B	B	75	H28改修(防災)
士別南小学校	校舎1	RC	3	6,108	1979	S54	39	旧	済	済	H22	24.7	長寿命	C	C	B	B	B	62	H22耐震補強
士別南小学校	体育館	S	1	1,001	1980	S55	38	旧	済	済	H22	31.7	長寿命	C	B	B	B	B	72	H22耐震補強
上士別小学校	校舎1	RC	2	1,711	2016	H28	2	新						A	A	A	A	A	100	H27危険改築
上士別小学校	体育館	S	1	559	2016	H28	2	新						A	A	A	A	A	100	H27危険改築
多寄小学校	校舎1	RC	1	881	2009	H21	9	新						A	A	A	A	A	100	
温根小学校	校舎1	RC	2	1,351	1985	S60	33	新						A	A	B	B	B	84	H29大規模
温根小学校	体育館	S	1	582	1971	S46	47	旧	済	済	H21	18	長寿命	B	B	C	C	C	53	H29耐震補強
糸魚小学校	校舎1	W	1	2,959	2007	H19	11	新						B	A	A	A	A	98	
糸魚小学校	体育館	S	1	922	2007	H19	11	新						A	A	A	A	A	100	
士別中学校	校舎1	RC	2	4,410	2005	H17	13	新						A	A	A	A	A	100	
士別中学校	体育館	RC	1	1,362	2006	H18	12	新						A	A	A	A	A	100	H30改修(防災)
士別南中学校	校舎1	RC	2	4,732	1991	H3	27	新						C	C	B	B	B	62	
士別南中学校	体育館	RC	1	1,819	1992	H4	26	新						C	C	B	B	B	62	H27改修(防災)
上士別中学校	校舎1	RC	2	1,666	2016	H28	2	新						A	A	A	A	A	100	H27危険改築
上士別中学校	体育館	S	2	704	2016	H28	2	新						A	A	A	A	A	100	H27危険改築
多寄中学校	校舎1	RC	2	2,465	1999	H11	19	新						A	C	A	A	B	80	H29屋上防水
多寄中学校	体育館	RC	1	1,366	1999	H11	19	新						A	C	A	A	A	83	H29屋上防水
朝日中学校	校舎1	RC	3	2,451	1975	S50	43	旧	済		H21	21	長寿命	C	B	C	C	C	50	
朝日中学校	校舎2	RC	2	1,246	1963	S38	55	旧	済		H21	21	長寿命	C	B	C	C	C	50	
朝日中学校	体育館	S	2	963	1975	S50	43	旧	済		H21	18	長寿命	C	C	C	C	C	40	
士別東高等学校	校舎1	RC	1	705	1959	S34	59	旧						D	D	C	D	C	25	
士別東高等学校	校舎2	W	1	432	1964	S39	54	旧						C	C	C	C	C	40	
士別東高等学校	体育館	S	1	528	1962	S37	56	旧						D	C	C	C	C	37	



## 第 3 章 学校施設整備の基本的な方針

### 1 学校施設を取巻く状況の整理

基本的な方針の整理に向け、本市の学校施設を取巻く状況を整理すると以下となります。

#### ◆少子高齢化の進展と地区別人口・子どもの数の減少

- 昭和 35 年（1960 年）の 45,705 人をピークに人口減少が続き、平成 27 年（2015 年）には 20,325 人と約 5 割以下にまで減少しています。
- 本市が推計した 2030 年の人口は、さらに 16,768 人まで減少するとされています。
- 地区別人口が 1,000 人以下に減少した地区は温根別地区、上士別地区、多寄地区の 3 地区となっています。
- 上記 3 地区では、小学校は全校児童が 30 人以下に、中学校では全校生徒が 20 人以下に減少しています。

#### ◆市が管理する公共施設のうち、2 番目に大きい学校教育系施設の管理床面積

- 本市は旧士別市と旧朝日町との新設合併により、北海道内で 9 番目に広い面積となり、地区も広範囲に分散しています。また、それぞれの地区に小学校が配置されており、小学校区は、中央地区の 2 校区を含む 6 校区となっています。
- 士別市公共施設白書（平成 28 年（2016 年）3 月）では、本市が所有・管理する公共施設数は 335 棟、延床面積は約 31.3 万㎡となり、そのうち、学校教育系施設の面積は市営住宅に次ぐ面積であり、全体の 18%となっています。

#### ◆築 30 年を超える施設が床面積割合で全体の 3 割以上

- 平成 30 年（2018 年）4 月現在、本市が管理する学校施設は 27 棟あり、延床面積は約 5.1 万㎡となっています。
- 築年数別では、築 40 年以上経過した施設が全体の約 22%（1.1 万㎡）、築 30 年以上経過した施設は 38%（1.8 万㎡）を占めています。
- 昭和 57 年（1982 年）以前の旧耐震基準で建てられた学校施設は 10 棟が該当します。これらについては耐震診断及び耐震改修を進めており、現在、耐震補強の未対応施設は朝日中学校のみとなっています。
- また、これら老朽化が見られる施設のうち、近年、温根別小学校においては、老朽改修（大規模改修）を行ったところですが、管理施設数が多いことから、引続き大規模な改善や老朽部位の個別改修等の対応が必要な施設が残されています。

## 2 学校施設のめざすべき姿

学校施設のめざすべき姿は、今後の学校施設整備の取組みにおいて実現すべき目標像となります。以下は文部科学省の諮問会議等において示された「安全性」「快適性」「学習活動への適応性」「環境への適応性」「地域の拠点化」の観点により示されたものですが、以下の項目を目標像の基本とし、適切な改築や改修等の施設整備を行います。

図表 3-1 学校施設の目指すべき姿（学校施設整備基本構想の在り方について H25 年 3 月）

<b>1 安全性</b>	
◆災害対策	◇地震・津波・洪水に強い学校施設 ◇防災機能を備えた学校施設
◆防犯・事故対策	◇安全で安心な学校施設
<b>2 快適性</b>	
◆快適な学習環境	◇学習能率の向上に資する快適な学習環境、 ◇バリアフリーに配慮した環境 ほか
◆教職員に配慮した環境	◇教職員に配慮した空間 ◇教職員等の事務負担軽減などのための校務の情報化に必要な ICT 環境 ほか
<b>3 学習活動への適応性</b>	
◆主体性を養う空間の充実	◇子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境 ◇子どもたちの教科等に対する興味関心を引き、自ら学ぶ主体的な行動を促すための空間 ◇子どもたちや保護者等が教員を訪れやすい空間 ◇社会性を身に付けるための空間 ほか
◆効果的・効率的な施設整備	◇習熟度別指導や少人数指導などの、きめ細かい個に応じた指導を行うための空間 ◇調べ学習や習熟度別学習、チームティーチングなどの多様な学習集団・学習形態を展開するための空間 ◇各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高めるための ICT 環境 ◇各教科等の授業を充実させるための環境
◆言語活動の充実	◇各教科等における発表・討論などの教育活動を行うための空間 ◇子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境 ◇各教科等の授業の中での調べ学習や協働学習、観察・実験のまとめや児童生徒の成果発表などに活用して学習効果を高めるための ICT 環境
◆理数教育の充実	◇充実した観察・実験を行うための環境
◆運動環境の充実	◇充実した運動ができる環境
◆伝統や文化に関する教育の充実	◇伝統や文化に関する教育を行うための環境
◆外国語教育の充実	◇外国語活動等におけるジェスチャーゲームなどの体を動かす活動や、ペアやグループでの活動など、児童生徒が積極的にコミュニケーションを図ることができるような空間
◆学校図書館の活用	◇子どもたちの自発的な学習や読書活動を促すための環境 ◇地域の生涯学習の拠点となる学校施設 ほか
◆キャリア教育・進路指導の充実	◇充実したキャリア教育・進路指導を行うための環境
◆食育の充実	◇食育のための空間
◆特別支援教育の推進	◇バリアフリーに配慮した環境 ◇自閉症、情緒障害又は A D H D 等のある児童生徒に配慮した学校施設
◆環境教育の充実	◇地球環境問題への関心を高めるためのエコスクール
<b>4 環境への適応性</b>	
	◇環境を考慮した学校施設（エコスクール）
<b>5 地域の拠点化</b>	
	◇安全で安心な学校施設 ◇バリアフリーに配慮した環境 ◇地域に開かれた学校とするための環境 ◇地域の生涯学習の拠点となる学校施設

### 3 学校施設整備の基本的な方針等

#### (1) 学校施設長寿命化計画の基本方針

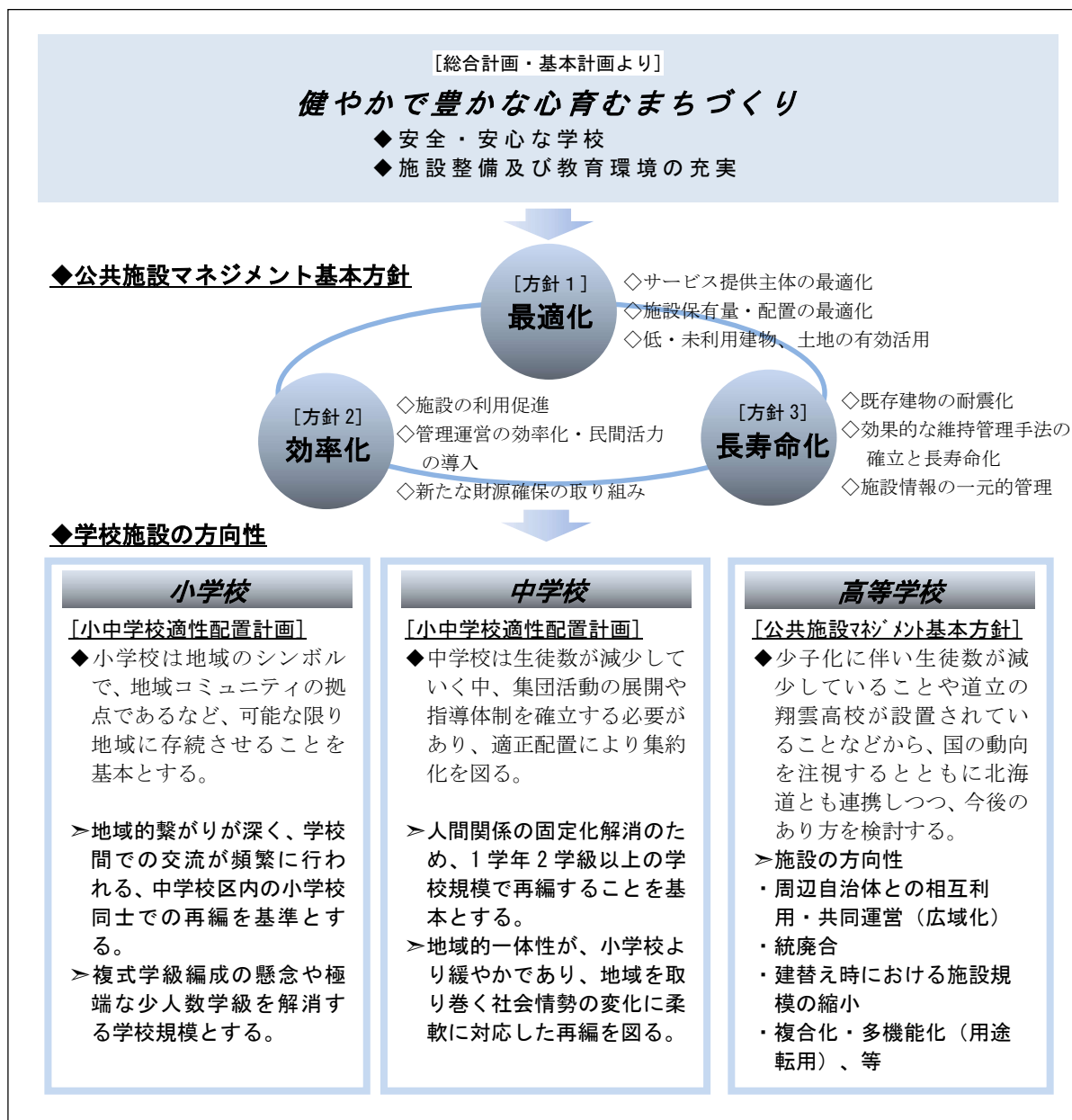
学校施設を取巻く状況、学校施設の老朽化状況を踏まえ、本市における今後の学校施設の整備や維持管理に関する方向性を整理します。

学校施設は児童生徒等にとって一日の大半を過ごす授業の場、教育の場として機能することはもとより、生徒と教師が過ごす生活の場や、地区にとっては災害時の避難場所の役割も果たすことから、安全で安心できる環境の維持が求められます。

しかしながら、近年の少子高齢化の進展に加え、市の財政負担の軽減、予算の平準化を勘案すると、これまでのように改築を中心とする老朽施設の更新の考え方では対応できなくなるものと考えられます。したがって、今後は改修等による施設の長期活用を基本に、地区の状況および将来的な児童生徒数の予測に基づき、施設毎の適正な維持管理を進めていくことが必要です。

こうしたことから、上位関連計画も踏まえた以下の方向性の下、本市における今後の学校施設整備を進めます。

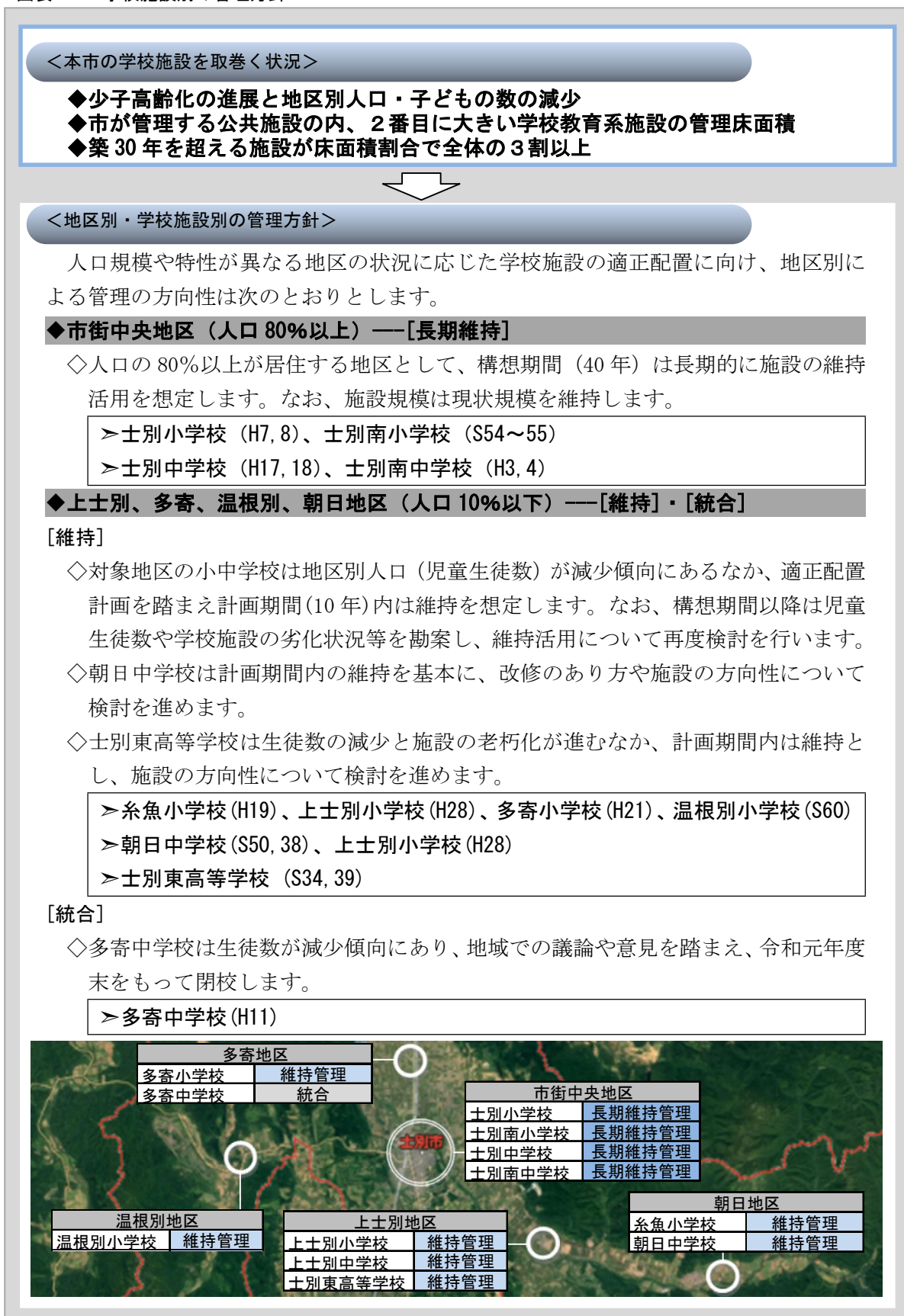
図表 3-2 学校施設の整備に関する上位計画からの方向性



## (2) 地区別・学校施設毎の方針

学校施設を取巻く状況および学校施設の配置状況等を踏まえ、地区別・学校別による管理の方針は次のとおりとします。

図表 3-3 学校施設別の管理方針



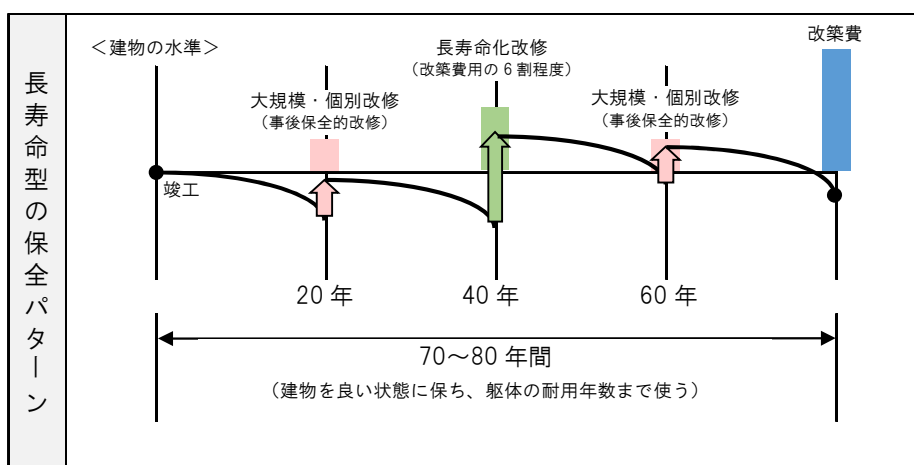
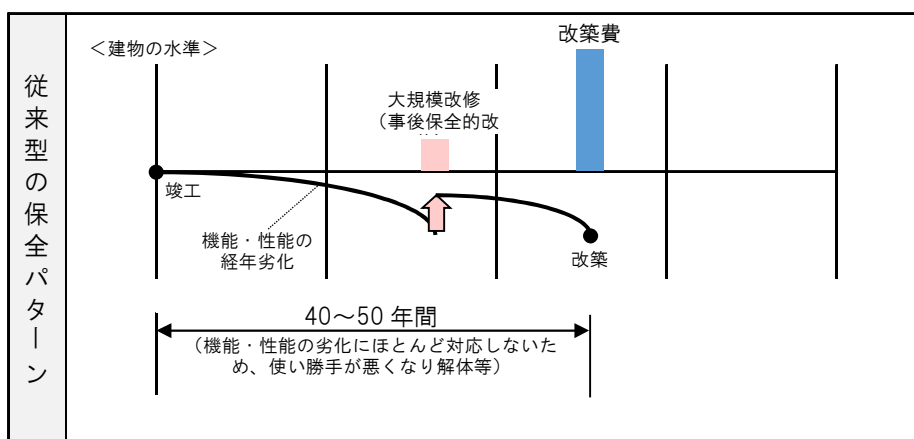
## 4 改修等の基本的な方針

### (1) 長寿命化の方針

基本方針の実現に向け、従来の改築を基本とする施設の更新から、「予防保全型」の維持管理手法の導入などにより、ライフサイクルコストの抑制に努めるとともに、長寿命化を原則として大規模改修は20年、長寿命化改修は40年と設定します。

#### <施設の使用年限・改修周期等の設定>

- ◆使用年数……………70～80年程度
- ◆長寿命化改修……………40～50年程度
- ◆大規模改修……………20～30年程度

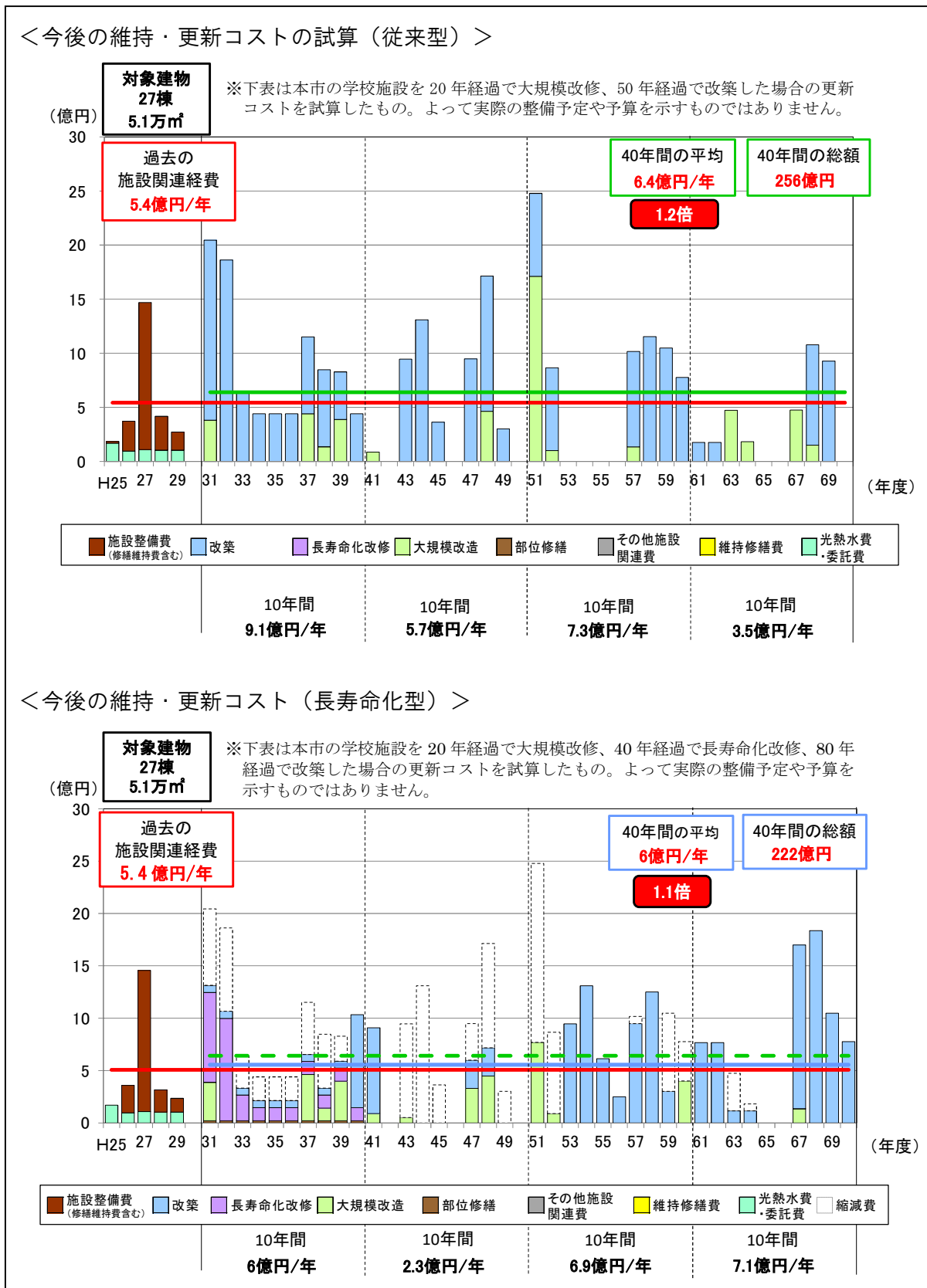


#### <改修工事の内容>

個別改修 (経年劣化部位改修)	大規模改修 (原状回復複合改修)	長寿命化改修 (原状回復+機能向上改修)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別部位ごとの経年劣化等による躯体への影響予防に資する改修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経年劣化による損耗や機能低下回復に向けた複合改修工事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経年劣化による機能回復工事と、社会的要求に対応する性能向上改修工事</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆劣化部位毎の個別改修</li> <li>・屋上防水改修 (部分)</li> <li>・外壁改修 (部分)</li> <li>・劣化部位修繕</li> <li>・故障、不具合修繕、など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆屋上防水改修 (全面)</li> <li>◆外壁改修 (全面)</li> <li>◆設備機器の更新 (部位)</li> <li>◆著しい劣化部位の修繕</li> <li>◆故障、不具合改修、ほか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆防水改修 (断熱化)</li> <li>◆外壁改修 (外断熱等)</li> <li>◆開口部改修 (断熱化)</li> <li>◆全面的な設備更新 (電気、給排水、ほか)</li> <li>◆内部改修</li> </ul>

## (2) 長寿命化によるコスト試算の比較と検証

長寿命化改修等により、施設の更新周期を50年から80年に伸ばした場合の維持更新コストの試算は以下となります。40年平均で年間約4千万程度のコスト削減が見込めます。



## 5 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

### (1) 改修等の整備水準

改修等の整備水準は、学校施設の老朽化の実態を踏まえ選定しますが、概ね築後40年を経過し、将来的にも長期維持管理を行う施設については、構造体の長寿命化やライフラインの更新などにより建物の耐久性を高めるとともに、省エネルギー化や多様な学習内容、学習形態による活動が可能となる環境の提供など、社会的要請に応じた施設改修を目指します。

図表 3-4 改修等の整備水準

部位		改修レベル			既存整備レベル
		長寿命化	大規模	(修繕レベル)	
外部仕上げ	屋根	ガルバリウム 鋼板葺替	全面塗装 (破損部部分補修)	部分塗装 (部分補修)	板金
	屋上	アスファルト防水		建設時仕様 (部分補修)	建設時仕様
	外壁	外断熱工法 (ガルバリウム・他)	全面塗装 (クラック部補修)	浮き部補修 クラック補修、等	複層塗材 内断熱
	開口部	断熱サッシ交換 (Low-eペア) or カバー工法	シーリング打替え 開閉調整		スチールサッシ アルミサッシ
内部仕上げ	内部仕上げ (教室等)	内装の全面撤去 ・更新	床補修 壁・天井塗替え	部分修繕	建設時仕様
	トイレ	内装全面改修 ドライ化 洋式化	床補修 壁・天井塗替え	部分修繕	ウエット(タイル貼) 和式

項目	改修等の方針や機能・性能の水準
安全性	◇地震・防火・浸水等に強い学校施設(耐震補強、他) ◇防災機能を備えた学校施設(防災備蓄、自家発電、他) ◇防犯対策が行き届いた学校施設(インターホン、非常放送設備、他)
快適性	◇バリアフリー、ノーマライゼーション、ユニバーサルデザインに配慮した学校施設 ◇安全快適な学習空間(トイレの洋式化・ドライ化・多目的トイレの設置、空調設備、他) ◇地域の木材を活用した学習環境(内装の木質化、他)
学習活動への適応性	◇多様な学習の場(フレキシブルに対応できるスペースの配置、他) ◇ネットワーク社会に対応するICT環境の整備 ◇児童生徒の居心地の良い居場所づくり(WS、ラウンジ、図書メディアスペース)
環境への配慮	◇高断熱・高气密・日射遮閉等の省エネルギー対策(断熱サッシ、外断熱、他) ◇環境に配慮した使用エネルギーの抑制(LED照明、太陽光発電、他) ◇環境学習空間の充実(エネルギーの見える化)
地域の解放・拠点化	◇地域に開かれた学校とするための環境づくり ◇地域の生涯学習の拠点となる学校施設 ◇災害時の地域避難拠点としての学校施設

## (2) 維持管理の項目・手法等

各学校施設の維持管理を効率的・効果的に実施するために、学校施設の劣化状況調査で使用した、劣化状況調査票を点検項目として設定します。

点検は法定点検と同様に3年に1回の実施とし、点検・評価の結果は同調査票に記入しデータを蓄積するとともに、毎年度実施する予定の学校施設等営繕調査の結果も含め、施設状況の把握と、将来の老朽化予測や改修検討に活用します。

図表 3-5 劣化状況調査票

部位	仕様 (該当する項目にチェック)	工事履歴(部位の更新)		劣化状況 (複数回答可)	箇所数	特記事項	評価
		年度	工事内容				
1 屋根 屋上	<input type="checkbox"/> アスファルト保護防汚			<input type="checkbox"/> 降雨時に雨漏りがある			
	<input type="checkbox"/> アスファルト露出防水			<input type="checkbox"/> 天井等に雨漏り痕がある			
	<input type="checkbox"/> シート防水、塗膜防水			<input type="checkbox"/> 防水層に膨れ・破れ等がある			
	<input type="checkbox"/> 勾配屋根(長尺金属板、折板)			<input type="checkbox"/> 屋根葺材に錆・損傷がある			
	<input type="checkbox"/> 勾配屋根(スレート、瓦類)			<input type="checkbox"/> 笠木・立上り等に損傷がある			
	<input type="checkbox"/> その他の屋根 ( )			<input type="checkbox"/> 樋やルーフトレを目視点検できない			
				<input type="checkbox"/> 既存点検等で指摘がある			
2 外壁	<input type="checkbox"/> 塗仕上げ			<input type="checkbox"/> 鉄筋が見えているところがある			
	<input type="checkbox"/> タイル張り、石張り			<input type="checkbox"/> 外壁から漏水がある			
	<input type="checkbox"/> 金属系パネル			<input type="checkbox"/> 塗装の剥がれ			
	<input type="checkbox"/> コンクリート系パネル(ALC等)			<input type="checkbox"/> タイルや石が剥がれている			
	<input type="checkbox"/> その他の外壁 ( )			<input type="checkbox"/> 大きな亀裂がある			
	<input type="checkbox"/> アルミ製サッシ			<input type="checkbox"/> 窓・ドアの廻りで漏水がある			
	<input type="checkbox"/> 鋼製サッシ			<input type="checkbox"/> 窓・ドアに錆・腐食・変形がある			
	<input type="checkbox"/> 断熱サッシ、省エネガラス			<input type="checkbox"/> 外部手すり等の錆・腐朽			
				<input type="checkbox"/> 既存点検等で指摘がある			

部位	修繕・点検項目	改修・点検年度	特記事項(改修内容及び点検等による指摘事項)	評価
3 内部仕上 (床・壁・天井) (内部建具) (間仕切等) (照明器具) (エアコン)等	<input type="checkbox"/> 老朽改修			
	<input type="checkbox"/> エコ改修			
	<input type="checkbox"/> トイレ改修			
	<input type="checkbox"/> 法令適合			
	<input type="checkbox"/> 校内LAN			
	<input type="checkbox"/> 空調設置			
	<input type="checkbox"/> 障害児等対策			
	<input type="checkbox"/> 防犯対策			
	<input type="checkbox"/> 構造体の耐震対策			
	<input type="checkbox"/> 非構造部材の耐震対策			
	<input type="checkbox"/> その他、内部改修工事			
4 電気設備	<input type="checkbox"/> 分電盤改修			
	<input type="checkbox"/> 配線等の敷設工事			
	<input type="checkbox"/> 昇降設備保守点検			
	<input type="checkbox"/> その他、電気設備改修工事			
5 機械設備	<input type="checkbox"/> 給水配管改修			
	<input type="checkbox"/> 排水配管改修			
	<input type="checkbox"/> 消防設備の点検			
	<input type="checkbox"/> その他、機械設備改修工事			

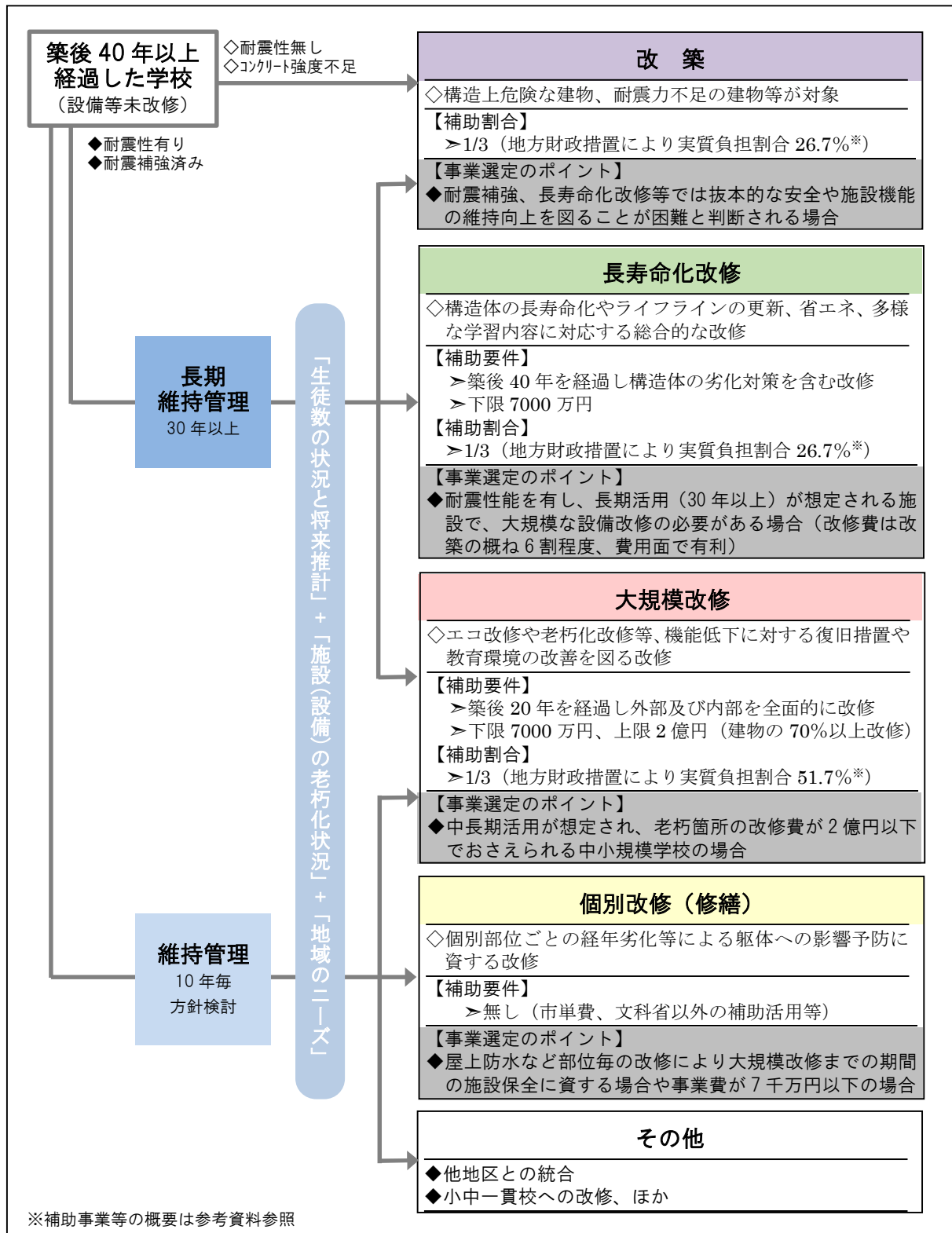


## 第4章 長寿命化の実施計画

### 1 改修等の優先順位づけと実施計画

#### (1) 学校施設の改築・改修に関する選定方針

改修周期の設定を踏まえ、築後20年を経過した施設は部位毎の個別改修、もしくはそれらを組み合わせた大規模改修を行います。また、築後40年以上を経過した施設は長寿命化改修を原則としながら、学校施設の配置計画方針を踏まえた以下のフローにより事業を選定します。



(2) 計画期間活用方針の設定

計画期間の活用方針を設定します。活用方針は配置計画の方針に基づく1次判定と劣化度判定に基づく2次判定を行った上で、改築・改修に関する選定方針をもとに設定します。

今後10年間の計画期間は事業量および優先度を勘案し、朝日中学校および士別東高等学校の改修もしくは統合等を検討し、事業を実施します。

図表 4-1 計画期間活用方針の設定

種別	学校名	建物名	構造	階数	建設年度	長期需要判定 (居住割合)			劣化度判定						計画期間 事業手法 (3次判定)	備考	
						築	80%	10% 以下	(1次判定)	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備			(2次判定)
小学校	士別	校舎1	RC	3	1995	23	○		長期 維持管理	B	B	B	B	B	維持保全	維持保全	-
		体育館	RC	1	1996	22	○		維持管理	B	B	B	B	B	維持保全		
	士別南	校舎1	RC	3	1979	39	○		長期 維持管理	C	C	B	B	B	個別改修	維持保全	優先度低く事業 量平準化により 構想期間改修
		体育館	S	1	1980	38	○		維持管理	C	B	B	B	B	個別改修		
	上士別	校舎1	RC	1	2016	2		○	維持管理	A	A	A	A	A	維持保全	維持保全	-
		体育館	S	1	1972	46		○	維持管理	A	A	A	A	A	維持保全		
	多寄	校舎1	RC	1	2009	9		○	維持管理	A	A	A	A	A	維持保全	維持保全	-
	温根別	校舎1	RC	2	1985	33		○	維持管理	A	A	B	B	B	維持保全	維持保全	H29年校舎改 修、躯体耐震改 修済、当面管理
		体育館	S	1	1971	47		○	維持管理	B	B	C	C	C	維持保全		
	糸魚	校舎1	W	1	2007	11		○	維持管理	B	A	A	A	A	維持保全	維持保全	-
		体育館	S	1	2007	11		○	維持管理	A	A	A	A	A	維持保全		
	中学校	士別	校舎1	RC	2	2005	13	○		長期 維持管理	A	A	A	A	A	維持保全	維持保全
体育館			RC	1	2006	12	○		維持管理	A	A	A	A	A	維持保全		
士別南		校舎1	RC	2	1991	27	○		長期 維持管理	C	C	B	B	B	個別改修	維持保全	優先度低く事業 量平準化により 構想期間改修
		体育館	RC	1	1992	26	○		維持管理	C	C	B	B	B	個別改修		
上士別		校舎1	RC	2	2016	2		○	維持管理	A	A	A	A	A	維持保全	維持保全	-
		体育館	S	2	2016	2		○	維持管理	A	A	A	A	A	維持保全		
多寄		校舎1	RC	2	1999	19		○	維持管理	A	C	A	A	B	維持保全	その他 [統合]	※士別中学校へ の統合を予定
		体育館	RC	1	1999	19		○	維持管理	A	C	A	A	A	維持保全		
朝日		校舎1	RC	3	1975	43		○	維持管理	C	B	C	C	C	耐震改修	耐震改修+ 個別or大規 模改修	※改修案検討中 (屋体は糸魚小ア リーナ共用)
		校舎2	RC	2	1963	55		○		C	B	C	C	C	個別改修		
	体育館	S	1	1975	43		○	C		C	C	C	C	個別改修	用途廃止 [解体]		
高校	士別東	校舎1	RC	1	1959	59		○	維持管理	D	D	C	D	C	改築	当面 維持管理	※劣化度は高く 存続の場合改築 が想定されるが、 計画期間は施設 の方向性検討と し当面維持管理
		校舎2	W	1	1964	54		○		C	C	C	C	C	改築		
		体育館	S	1	1962	56		○		D	C	C	C	C	改築		

## 2 長期的な管理の見通し

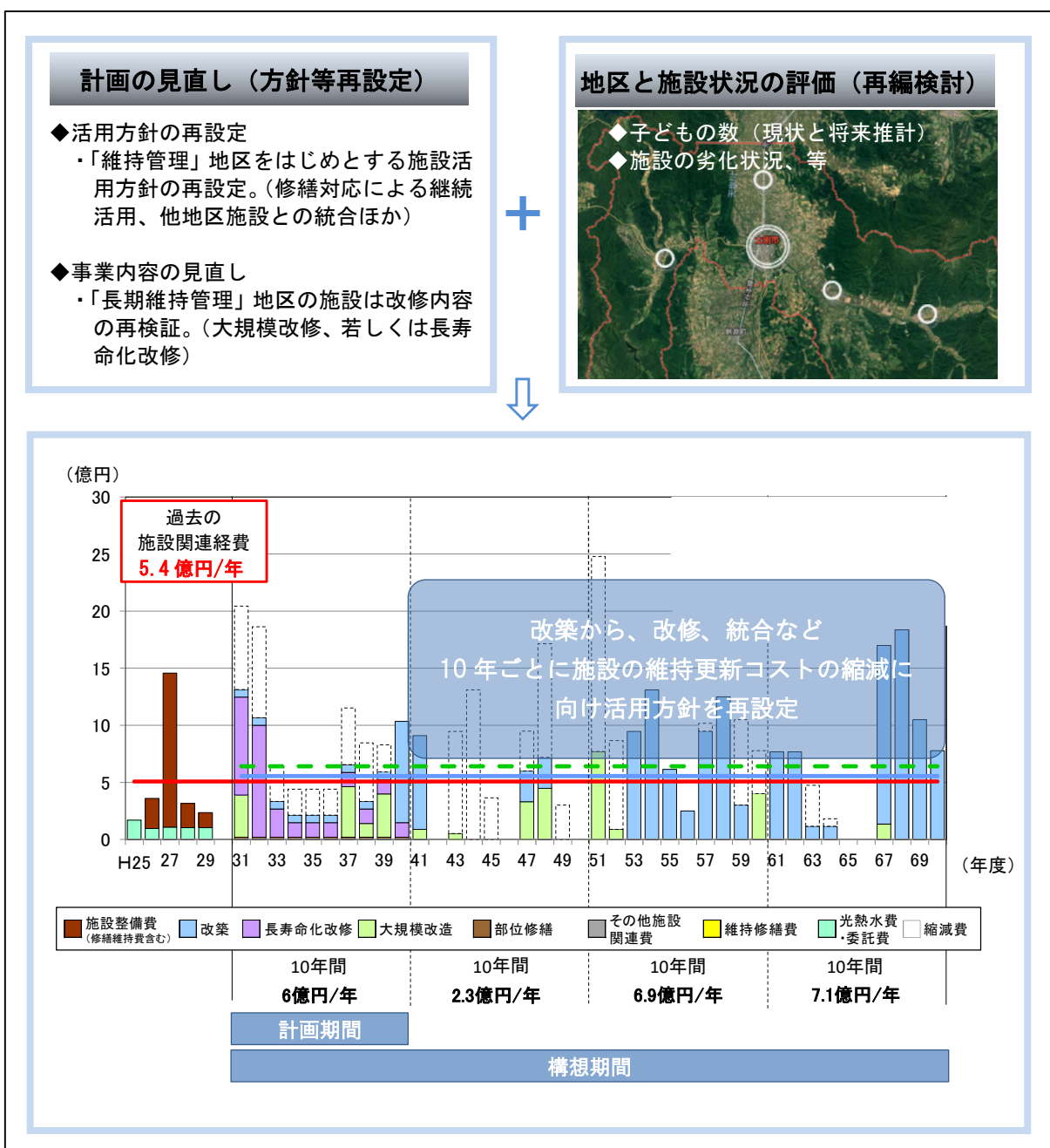
### (1) 長期的な維持管理コストの縮減に向けた方向性

今後の施設更新周期を長寿命化等による改修型とすることで、計画期間内に想定された事業費についてはコストの縮減となりますが、構想期間に入ると改築周期をむかえる老朽施設が多数あり、計画期間に比べコストの大幅な増加が想定されます。

しかし、これらの想定は、学校施設を現状のまま長期に渡り維持管理することを前提とした試算によるためです。

よって、維持更新コストの縮減に向けては、必要に応じて計画期間のおおむね10年おきに学校施設毎に活用方針の再検討を行い、適正な施設保有量による実現可能な維持管理を行います。

図表 4-2 維持管理コストの縮減に向けた方向性



## (2) 学校施設の長期的な管理の見通し

長期的な維持管理コストの縮減に向けた方向性を踏まえ、構想期間 40 年の管理の見通しを次のとおりとします。「長期維持管理」地区については下表の時期に改修を予定しますが、具体的内容については改修時期の劣化状況評価等により再度設定します。

「維持管理」地区については、計画期間のおおむね 10 年おきに学校生徒数の状況や施設の劣化状況等を勘案し、活用方針を再設定します。

図表 4-3 長期的な管理の見通し

種別	学校名	建築年度	1 期(2020~29)		2 期(2030~39)		3 期(2040~49)		4 期(2050~59)		備考
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
小学校	士別	H7~8					大規模 若しくは 長寿命				H28屋体改修 (防災)
	士別南	S54~ 55			大規模 若しくは 長寿命						H22耐震改修 (校舎、屋体)
	上士別	H28			活用方針 再設定		活用方針 再設定		活用方針 再設定		H27危険改築
	多寄	H21			活用方針 再設定		活用方針 再設定		活用方針 再設定		—
	温根別	S 46,53,60			活用方針 再設定		活用方針 再設定		活用方針 再設定		H29校舎大規模改修、 H29屋体耐震改修
	糸魚	H19			活用方針 再設定		活用方針 再設定		活用方針 再設定		—
中学校	士別	H17,18							大規模 若しくは 長寿命		H30屋体改修(防 災)
	士別南	H3,4				大規模 若しくは 長寿命					H27屋体改修(防 災)
	上士別	H28			活用方針 再設定		活用方針 再設定		活用方針 再設定		H27危険改築
	多寄	H11	士別中との 統合 (2020年)		—						H29屋上防水改修 (校舎、屋体)
	朝日	S 38,50,51	方針検討 (改修等)								
高校	士別東	S34~ 36	当面維持管理 (方針検討)								—

### 3 長寿命化の継続的運用方針

#### (1) 情報基盤の整備と活用

本計画を推進するにあたり、学校施設の状況や改修履歴などをデータとして蓄積し、適切な時期に更新することが重要となります。

次の情報を適切に管理し、学校施設の状況を把握することで、今後の改修内容や時期を総合的に判断します。

各データは、施設状況に変化が生じた際や、改修、報告などが行われた際に適宜更新するほか、毎年度、更新の有無を含め内容を確認します。

情報基盤	内容等
◇学校施設台帳	・学校施設の基本情報
◇学校施設別営繕履歴	・改修、修繕の履歴（台帳）
◇定期・法定点検報告	・点検時の指摘事項等
◇学校施設実態調査	・学校からの修繕要望等（各年）
◇劣化状況調査結果	・施設の劣化状況及び相対的な老朽度の評価（概ね5年更新）

#### (2) 推進体制等の整備

本計画策定後も、学校施設の老朽化は進行し状況は変化していきます。

また、学校施設に求められる機能や水準も変わっていくことが想定されます。

学校施設の整備は本市の公共施設の維持管理費の中でも、多大なウェイトを占めるほか、その役割は教育の場のみならず、地域コミュニティ、災害対応（避難）等も求められます。

よって、これら学校施設の状況を把握し、多岐に渡る役割や性能の維持と課題の解決に向けては、教育委員会はもとより、関係部署との連携は欠かせません。

本計画に基づき、長寿命化を確実に実現するためには、関係部署との連携をより一層図り、推進体制を充実させていきます。

#### (3) フォローアップ

本計画に基づき、効率的かつ効果的に学校施設整備を進めていくためには、PDCAサイクルを確立することが重要となります。

本計画は、学校施設の改修や建替えの優先順位を設定するものであり、上位関連計画及び総合計画の策定の中で協議、検討を行います。

また、計画期間事業プログラムについては上記検討の際に精査していくとともに、事業の進捗状況、情報基盤から得られる老朽化に関する状況・評価などの結果、また、各学校区の子どもの数等の状況を踏まえた上で、必要に応じ見直しを行います。

PDCA サイクル	
<Plan>	① 施設の状況を把握した上で、それを踏まえた整備計画を策定
<Do>	② 計画に基づく日常的な維持管理や適切な改修を実施
<Check>	③ 整備による効果を検証し、整備手法の改善点などを整理
<Action>	④ 次期計画に反映